

医局・薬局 検討資料

平成9年3月19日配布

東医研：薬剂科 金成俊
医局 村主明彦

< 一冊の注意 >

服薬指導マニュアル

処方解説編

北里研究所東洋医学総合研究所

薬剤科

<一般的注意事項>

・服薬指導の目的

医師：疾患に対する薬物治療の目的を説明し、患者の同意と信頼を得る。

薬剤師：薬物治療に用いる薬剤の説明を行う。薬剤の説明を行うことによって患者の「生命・健康権」と「知る権利」に奉仕する。

・本書の目的

患者に対して適切な服薬指導を行い、患者の薬に対する不安を取り除き、医師の薬物行為の手助けとなるように使用する。医師の治療目的の防げとなるような情報提供は行わない。

・説明の要領

詳しく説明することではなく、治療上助けとなる内容を簡潔に述べる。

・副作用

副作用の判断は医師が行い、薬剤師が判断すべきではない。副作用の問い合わせがあった場合は医師に照会する。

・窓口での問い合わせ事項

窓口での問い合わせ事項は①薬品名②薬効③併用④副作用⑤用法用量⑥保存⑦処方箋照会などである。

⑤⑥⑦の事項については従来通りの対応を行う。

①～④の事項については次の事項に従う。

1. 薬品名

・原則として基本処方のみを答える。

例>処方名：小柴胡湯加桔梗石膏

患者：薬の名前は何か。

薬剤師：今回の薬は小柴胡湯と言うお薬に必要な生薬が加わっています。

補) すべての生薬名を知りたい患者には内容を教える。ただしその旨をカルテに記入しておく。

2. 薬効の問い合わせ

- ・原則として医師に尋ねるように指導する。
- ・患者が薬剤師に説明を希望する場合には、漢方薬は応用範囲が広いので、医師の診断によって一つの処方がある病気に使用される点を良く理解していただく。とくに漢方薬は「病名」によって処方するのではなく「証」という概念によって処方されるのだということを「表(別紙参照)」の例を見せながら「このように同じ肝炎でも症状、兆候によって薬が違うんですよ」と見本を見せながら説明する。

最初に「今回はどのような症状でおかかりですか」と尋ねる。

マニュアルの一般的な効能と一致する場合は以下の要領で応答する。

例> 患者：この薬(小柴胡湯)は何に効くのですか。

薬剤師：今回はどのようなことでおかかりになりましたか。

患者：肝臓が悪くてかかりました。

薬剤師：そうですか。このお薬は血行を良くし、免疫力を高めることによって肝臓の働きを助けるお薬です。

注) 症状が多岐にわたる神経症的な人が対象の場合には診察時医師に尋ねるように指導する。どうしても薬剤師に説明を求める場合にはカルテを取り寄せて説明する。

3. 併用について

- ・併用している薬の種類を確認する。
特に問題のない場合には一時間以上の間隔をあけて服用しても差し支えない。西洋薬は食後服用が多いので、漢方薬は食前服用とする。
併用薬剤としてカルテに記載がなく本人が薬剤師に掲示した場合その薬剤をカルテに記入し、注意すべき併用があれば医師にコメントする。

例) 麻黄剤の患者が西洋薬として β -blockerを服用している場合。

・次の薬は要注意

- ①漢方薬に大黄を含む処方では西洋薬の下剤あるいは瀉下活性のある民間薬を服用しているときは漢方薬だけを服用するように指導する。
- ②甘草、麻黄を含む処方では西洋薬と成分が重複していないか確認する。
- ③他施設、薬局などで漢方薬服用時は当研究所の漢方薬のみを服用
- ④作用の強くない民間薬をお茶代わりに服用するのは差し支えない。

4. 副作用について

漢方薬の副作用は軽度であり服薬を中止することによって改善される場合が多い。服用初期における軽度の副作用（患者がそれほど負担としない）の場合には継続服用によって改善されることもあるので数日間経過観察する。

患者自身が負担と訴える場合は服薬を中止し、医師に相談するように指導する。薬剤師の判断で副作用と判断しない。

・注意すべき生薬および処方例

漢方薬を使用する場合、注意を必要とする生薬、注意事項、処方例をTable Iに示した。

処方例は比較的使用頻度が高く、該当生薬含量が多い処方あげている。

漢方薬の服薬指導は、表に示した注意事項を念頭におき指導すべきである。

一方表に示された注意事項はある意味では薬効となりえる場合もあるので適切な判断を行う。

例えば

- ①葛根湯に含まれる麻黄の副作用としてあげられている不眠は、葛根湯の主作用として考えると、葛根湯は眠くならない風邪くすりとして応用できる。
- ②附子は冷えによる痛みを除く作用があるため、薬効が強すぎたり附子を必要としない疾患に用いると熱感、ほてりの症状が現れるのは当然である。
また、舌のしびれ感は必ずしも附子の作用によるのではない。細辛、乾姜、生

姜、遠志等に含まれる辛味成分が粘膜を刺激する。

これらの生薬を多く含む処方、煎じくすりあるいはエキス剤を熱湯に溶かして服用する場合には、服用後舌のしびれ感がある。

細辛を多く含む処方としては麻黄附子細辛湯、小青竜湯、当帰四逆加呉茱萸生姜湯等がある。

③地黄、当帰は補陰、補血作用があるが、地黄、当帰を多く含む処方を胃腸虚弱の患者に用いる場合は注意を要する。

④大黄の腹痛、下痢は薬効が強すぎることによって起こる作用であるため、使用量に注意する。

⑤桂皮はまれに発疹等のアレルギー症状が発現する。問診によって桂皮（シナモン）のニオイを好まない患者には注意する。

⑥石膏は身体を冷やす作用があるため、胃腸虚弱、冷え症の患者には注意する。

⑦薬用人参は民間では万病治療薬として考えられているが、体質的に人参が適さない場合にのぼせ、めまいなどの症状が見受けられる。

⑧甘草は最もおおくの漢方処方に含まれる生薬であり、使用頻度も高い。また主成分グリチルリチンあるいは甘草抽出エキスが西洋薬としても使われている。さらに甘味料として医薬品、食品に多く含まれている。甘味料として用いられている甘草の年間使用量は薬用の約四倍量にも達している。薬の併用、飲食物からの摂取によって必然的に体内の蓄積量が多くなるため、甘草の副作用が発現する場合が多い。

Table I <注意すべき生薬および処方例>

生薬	注 意 事 項	処方例と該当生薬重量
麻黄	エフェドリンは交感神経刺激、中枢興奮作用があるので狭心症、心筋梗塞患者には使用しない。高血圧、高齢者には使用に注意する。また不眠、動悸、興奮、排尿障害発疹、急性胃粘膜病変などに注意。	越婢加朮湯6.0 神祕湯5.0 麻黄湯5.0 薏苡仁湯4.0 麻杏甘石湯4.0 麻黄附子細辛湯4.0 葛根湯4.0 小青竜湯3.0
附子	神経毒を持つアコニチン系アルカロイドを含む。エキス剤に使用されている附子は減毒処理されており安全性が高い。心悸亢進、頭痛、舌のシビレ感、熱感、ほてり、発汗などに注意。	桂枝加朮附湯 桂枝加苓朮附湯 桂枝芍薬知母湯 牛車腎気丸 小續命湯 真武湯 大防風湯 八味地黄丸 麻黄附子細辛湯
地黄	消化機能低下による胃排出能低下、胃部不快感、腹痛軟便、また発疹などのアレルギー症状に注意。	八味地黄丸6.0 潤腸湯5.0 炙甘草湯6.0 芍帰膠艾湯5.0 牛車腎気丸6.0 当帰飲子4.0 人参養栄湯4.0 温清飲4.0 大防風湯3.0 消風散3.0 十全大補湯4.0
大黄	センソサイド（腸内細菌によりレインアンスロンに分解）による腹痛、下痢を引き起こす。	三黄瀉心湯 潤腸湯 大黄甘草湯 大柴胡湯 大黄牡丹皮湯 桃核承気湯 防風通聖散 麻子仁丸
桂枝	発疹などのアレルギー症状をひきおこす。シナモンのニオイを好まない患者には注意する。	安中散3.0 桂枝加朮附湯4.0 桃核承気湯4.0 苓桂朮甘湯4.0 小建中湯4.0 当帰建中湯4.0 当帰四逆加呉茱萸生姜湯3.0 小青竜湯3.0 十全大補湯3.0 桂枝茯苓丸4.0 炙甘草湯3.0
石膏	食欲不振、腹痛、下痢に注意。	白虎湯15.0 白虎加人参湯15.0 大青竜湯10.0 麻杏甘石湯10.0 麻杏薏甘湯10.0 木防己湯10.0 越婢加朮湯8.0 辛夷清肺湯5.0 釣藤散5.0
当帰	食欲不振、嘔気、腹痛、下痢、アレルギー性皮膚炎に注意する。	乙字湯6.0 当帰飲子5.0 当帰湯5.0 竜胆瀉肝湯5.0 薏苡仁湯4.0 温清飲4.0 十全大補湯4.0 当帰建中湯4.0 加味逍遙散3.0 補中益気湯3.0 抑肝散3.0 当帰四逆加呉茱萸生姜湯3.0 当帰芍薬散3.0
人参	頭痛、のぼせ、鼻出血、血圧上昇、めまいに注意する。	補中益気湯4.0 六君子湯4.0 四君子湯3.0 十全大補湯3.0 小柴胡湯3.0 清心蓮子飲3.0
甘草	偽アルドステロン症を誘発し、血圧上昇、低カリウム血症、浮腫、のぼせ、めまい感を引き起こす。	甘麦大棗湯5.0 甘草乾姜湯4.0 炙甘草湯4.0 芍薬甘草湯4.0 甘草瀉心湯3.5
細辛	舌のしびれ感、口内炎・咽頭炎のような症状	小青竜湯3.0 麻黄附子細辛湯3.0
乾姜	舌のしびれ感、口内炎・咽頭炎のような症状	大建中湯3.0 乾姜人参半夏丸料3.0

<注意すべき生薬> (症状別)

症 状	該 当 生 薬
胃腸の弱い患者	麻黄、地黄、大黄、当帰、桔梗、川芎、石膏
血圧の高い患者	麻黄、人参、甘草、不整脈のある人は附子
浮腫のある患者	甘草
冷え性の患者	大黄、石膏、黄連、黄柏、山梔子
炎症の強い患者	附子
皮膚疾患の患者	桂皮、麻黄、羌活、独活、荊芥などは皮膚疾患に良く使用する生薬であるが、まれに生薬アレルギーによって悪化する場合がある。
妊婦服薬禁忌	桃仁、牡丹皮、紅花、牛膝、薏苡仁、大黄

漢方製剤副作用報告例

処方名	副作用	件数
温清飲	膀胱炎様症状	1
加味帰脾湯	多汗	1
加味逍遙散	口内乾燥	1
五積散	口内炎	1
柴胡桂枝湯	膀胱炎様症状	1
柴朴湯	頻尿 膀胱炎症状	1
	間質性肺炎	2
	肝機能悪化	1
柴苓湯	膀胱炎様症状	1
芍薬甘草湯	倦怠感	1
芍薬甘草附子湯	血小板減少 貧血	1
小柴胡湯	肝機能異常	4
	高血圧	1
	間質性肺炎	5
	浮腫	1
	膀胱炎様症状	1
小青竜湯	紅斑性発疹	1
疎経活血湯	搔痒	1
大黃牡丹皮湯	劇症肝炎	1
大防風湯	頭痛	1
桃核承気湯	下痢	1
八味地黄丸	多汗	1
	嘔気 消化不良	1
防己黄耆湯	高血圧 頭痛	1
防風通聖散	高血圧 頭痛	1
麻杏甘石湯	嘔気 心悸亢進 頭痛	1

(医薬品副作用モニター報告より)

＜処方解説＞

凡例

- 1・（目標）には漢方的な見地から見た症状を記した。
- 2・（応用）には西洋医学的な病名を記した。
- 3・（方解）には構成される生薬について、処方中における働きを記した。
- 4・（目標）のキーワードには、下線を引いてある。
- 5・参考となる内容には、★マークをつけてある。
- 6・窓口で説明する際に好ましくない表現については、文字圏で現してある。
（⑩参照）
- 7・処方名の別名については、処方名下段に<>で現してある。
- 8・出典の異なるものについては、処方名下段に（）で現してある。
- 9・煎じ方で特に注意する点については強調文字で現してある。
- 10・桂皮および桂枝はともに桂皮をさす。
- 11・薬効の説明における用語の注意

使用しない語句	代わりに使用する語句
例1) ノイローゼ・神経症・鬱病・ ヒステリー・精神病・癲癇	→「自律神経のバランスがくずれています」
例2) 健忘症・痴呆・ボケ	→「血行が悪くなっています」
例3) 癌・白血病・エイズ・梅毒	→「免疫力が低下しています」
例4) 性的疲労・陰萎・遺精・性病	→「疲れがたまっています」
例5) その他	→「胃腸の働きがおちています」

上記の表に従って、表左のような患者さんに誤解を生じさせたり、不安を助長するような表現はさけて、表右のような表現を使って説明して下さい。

<ア行>
安中散料

- (目標) 脾胃に寒があり胃痛・悪心・胸やけのするもの。
虚証で慢性の心窩部の痙攣性疼痛に用いる。
(応用) 神経性胃炎・慢性胃炎・胃アトニー・胃、十二指腸潰瘍
(方解) 芳香性健胃薬・鎮痛薬(桂皮・延胡索・茴香・縮砂・甘草・良姜)で構成される。牡蠣には制酸作用がある。
★ 動悸を伴う者には茯苓を加える場合が多い。

痿證方

- (目標) 腰脚痿弱するもの。発病初期でまだ虚症にならないもの。
(応用) 大病後の下肢無力・産後の脚膝痿弱・脚気の下肢麻痺・
脊椎炎・小児麻痺
(方解) 四物湯 去川芎 加牛膝・杜仲
四物湯は補血し、牛膝・杜仲は腰脚弱を補う。

胃風湯

- (目標) 慢性胃腸虚弱で寒冷による下痢
体力も衰弱し腸全体に慢性の炎症のあるもの。
(応用) 慢性下痢症・慢性大腸炎、直腸炎・冬期脱肛
(方解) 四君子湯 去甘草は補気し、四物湯 去地黄は補血する。
桂枝は身体を温め消化吸収を促進する。粟は腸管をひきしめる。

胃苓湯

- (目標) 水毒体質者の食あたり・腹痛下痢
急性胃腸炎で小便不利、腹痛下痢するもの。
(応用) 夏期の食あたり
(方解) 五苓散料 合平胃散料
五苓散は利尿し、平胃散は胃内の宿食と水毒を去る。

茵陳蒿湯

- (目標) 黄疸に用いる。
裏(胃腸)に鬱熱があり、熱が心胸にせまり煩悶するもの。
(応用) カタル性黄疸・肝炎・蕁麻疹
★カタル性：滲出物を伴う粘膜の炎症および剥離
(方解) 茵陳蒿と山梔子は消炎利尿し黄疸を治す。大黄は緩下作用があり消炎する。

茵陳五苓散料

- (目標) 口渴があり、尿量減少し浮腫があり軽度の黄疸を伴うもの
(応用) 黄疸・腹水・浮腫・蕁麻疹
(方解) 五苓散料 加茵陳蒿

烏頭湯

- (目標) 強い関節痛・四肢が冷え屈伸できないもの。
(応用) 関節炎・リウマチ・肩関節周囲炎・腰痛症・坐骨神経痛

- (方解) 烏頭は鎮痛作用が強く、冷えを去る。麻黄は発汗・利尿し血行促進し浮腫を減ずる。芍薬・甘草は筋拘急・痙攣を去り、黄耆は全身の機能代謝を高め、蜂蜜は滋養強壯する。
 ★烏頭は日本市場では修治していないトリカブトの根を示す。附子は修治したトリカブト根を示す。
 烏頭は毒性が強いので、使用の際に水と蜂蜜で先に煎じ減毒処理をする。

烏頭桂枝湯 (目標) 腹部が冷えて痛み、手足が冷えて知覚麻痺し、身体四肢が痛むもの。

(応用) 冷え腹・腸カタル・腹膜炎・リウマチ・関節炎・神経痛
 脳溢血・破傷風・ヘルニア・下肢麻痺

(方解) 烏頭を蜂蜜で減毒処理したものに桂枝湯の煎液を合わせて服用する。桂枝加附子湯証の激しいものに使用

烏薬順気湯 (目標) 四肢麻痺・半身不随・顔面神経麻痺で表証があるもの。

(応用) 脳溢血による手足疼痛、痺れ感・五十肩・顔面神経麻痺・足が弱って歩行困難なものに用いる。

(方解) 烏薬・白芷・白僵蚕・甘草は鎮痙・鎮痛作用があり、陳皮・枳殻・生姜は消化を助ける。麻黄は解熱・発汗し、川芎は血行促進し、桔梗は清熱・去痰する。

温経湯 (目標) 気血の虚と寒冷を帯びる諸婦人病で、手足のほてり、口唇の乾燥、下腹部の膨満感、月経不順などを訴えるもの。

(応用) 月経不順・帯下・更年期障害・不妊症・乾癬・手掌角皮症

(方解) 補血作用のある当帰・芍薬・川芎、瘀血を去る牡丹皮、血の枯燥を潤す麦門冬・阿膠、気虚を補う人参・甘草、冷えを去る呉茱萸・生姜・桂枝、消化促進し腹部膨満感を去る半夏より構成される。

煎じて滓を漉した後阿膠を加えて溶かす

★阿膠：ろばの皮を煮詰めて作った膠塊
 ゼラチン・コラーゲンを含み補血・止血・滋潤作用がある。

温清飲 (目標) 温と清をかねた方剤で、皮膚が渋紙の様に枯燥し慢性的に経過して肝機能障害を伴うもの。

(応用) アトピー性皮膚炎・尋常性乾癬・皮膚搔痒症・諸出血・肝障害・アレルギー体質改善

(方解) 補血し血行促進する四物湯と、清熱し解毒する黄連解毒湯の合方

温清飲加釣藤黄耆 (目標) 高血圧でのぼせ・顔面紅潮・不眠・不安感のあるもの。
(応用) 高血圧
(方解) 七物降下湯 加黄連・黄芩・山梔子

温胆湯 (目標) 虚症の不眠症・病後の衰弱や胃下垂症・胃腸虚弱で驚きやすく動悸・呼吸促迫するもの。
(応用) 不眠症・心悸亢進症・驚悸症・胃腸障害・気鬱症
(方解) 胃内停水を去る二陳湯に、胃熱を去り睡眠を促す竹茹、心下痞を去る枳実を加えたもの。

温脾湯 (目標) 便秘で疲労倦怠感が強く、食欲不振・冷え・腹痛するもの。
(応用) 慢性胃炎の便秘・慢性下痢
(方解) 四逆湯 加党参・大黄
党参・甘草は補気し、胃腸機能を高める。附子・乾姜は寒を去り全身機能を高める。
★大黄は瀉下効果があるが、抗菌・消炎効果を利用し少量で下痢にも用いる。

越婢湯 (目標) 浮腫・悪風・自汗・喘咳・小便不利と渴・下半身の腫痛
(応用) ネフローゼ・腎炎・下肢関節炎・リウマチ・気管支炎
(方解) 麻黄は利尿を通じ浮腫を去る。石膏は消炎・鎮静し、甘草・大棗・生姜は諸薬を調和する。
麻杏甘石湯 去杏仁 加大棗・生姜
★麻黄と石膏の組み合わせで自汗を止める。
★麻黄と桂枝の組み合わせで発汗する。

越婢加朮湯 (目標) 越婢湯証で浮腫・疼痛・小便不利の強いもの。
(応用) 腎炎・ネフローゼ・関節リウマチ・眼疾患で分泌物が多く醜いもの・急性結膜炎・湿疹・下肢麻痺
(方解) 越婢湯 加蒼朮でさらに水分の停滞を去る。

延年半夏湯 (目標) 肩こりと胃の痛みを治す。
気鬱と水滞による胃障害・心窩部疼痛膨満感・左季肋下部や左乳房下部の疼痛・左肩こり・足冷え症
(応用) 慢性胃炎・胃潰瘍・十二指腸潰瘍・肋間神経痛・肩こり
(方解) 気を順らし胃や胸膈に停滞した水毒やガスを去り痞を去る。
枳実・檳榔子・別甲は痰(水滞)を去り気をめぐらす。
半夏は胃内停水を去り、桔梗は去痰し、呉茱萸・生姜は寒を去り痛みを去る。人參は胃腸機能を高め、柴胡は胸脇苦満を

去る。

★本方は痲痺と黄腫の薬方とされる。

痲痺：身体不均衡に寒が加わり、胸肋部に塊を成し痛み、
項肩背の攣縮がある。

黄腫：貧血して動悸・息切れを訴える。

黄耆桂枝五物湯（目標）下肢の知覚麻痺を主訴とする脚気・皮膚の搔痒
顔面や全身に汗が流れるもの。

（応用）脚気・下半身不随・顔面神経麻痺・皮膚病・水疱

（方解）桂枝加黄耆湯 去甘草

黄耆は皮膚にしまりがなく汗を発するものに使用

★本方は血痺の病に使用

血痺：血液循環が悪くなり知覚麻痺が起こること。

黄耆建中湯（目標）小建中湯証よりもさらに虚状甚だしく、盗汗・腹痛があるもの。

（応用）病後の衰弱・痔瘻・癰疽・慢性中耳炎・慢性潰瘍・中耳炎

（方解）小建中湯 加黄耆

小建中湯は疲労回復し腹痛を治す。黄耆は皮膚の栄養を助け、
盗汗を止め、肉芽を生じ化膿を止める。

煎じて滓を濾した後膠飴を加えて溶かす。

★膠飴：米粉・小麦粉に麦芽を加えて作った飴

滋養強壯・健胃作用がある。

黄芩湯

（目標）下痢して裏急後重するもの。熱感があり腹痛を伴うもの。

（応用）下痢・赤痢・腸炎・乳幼児の消化不良

（方解）清熱解毒の黄芩に鎮痙・鎮痛の芍薬・大棗・甘草からなる。

黄連湯

（目標）腹痛・悪心・嘔吐

胃部停滞感や食欲不振・口臭・舌苔があるもの。

（応用）胃炎・食あたり・胃酸過多症・口内炎

（方解）半夏瀉心湯 去黄芩 加桂皮

上部の炎症症状を黄連の消炎・解熱作用により除く。

寒涼性の黄芩を除き、桂枝を加え寒を去り鎮痛する。

黄連阿膠湯

（目標）熱により心中煩して眠れないもの。瀉心湯の虚したもの。

（応用）虚症を帯びた熱性疾患・肺炎・脳膜炎・諸出血

皮膚疾患で、夜も眠られないほど痒く赤く乾燥気味のもの。

アトピー性皮膚炎

（方解）瀉心湯の基礎となる黄芩・黄連に、瘀血を去る芍薬、血燥

を潤す卵黄・阿膠を加えたもの。
煎じて滓を濾した後阿膠を加え溶かす。
少し冷まし卵黄1個加えよく混ぜて温服する。

黄連解毒湯 (目標) 実熱によって起こる炎症と充血を伴った諸症
不安焦燥・心悸亢進があり出血傾向を有するもの。
(応用) 諸種の出血(吐血 鼻血など)・諸熱性病・皮膚疾患
脳溢血・高血圧・のぼせ・不眠・酒渣鼻・精神病
(方解) 黄連・黄芩・山梔子は苦味寒冷解熱薬で炎症充血を去る。
黄柏は消炎に利尿をかねる。
★皮膚病のかゆみ止めとして服用することがある。

乙字湯 (目標) 諸痔疾患
(応用) 痔核疼痛・出血・肛門裂傷・陰部痒痛・皮膚病後の神経症
(方解) 下焦の湿熱を清解し、中気下陷を升提する柴胡・升麻、
滋潤通和の当帰・甘草、裏熱を清解する黄芩よりなる。
便秘のものは大黃を増やす。

<カ行>

解急蜀椒湯 (目標) 腹部の冷えと痛み・腹張・腹中雷鳴・嘔吐・下痢
(応用) 胃腸カタル・冷え腹・鼓腸・回虫
(方解) 附子粳米湯 合大建中湯
脾胃の冷えと痛みを去る。

香川解毒散料 (目標) 諸皮膚疾患や淋病に用いる。
(応用) 泌尿器の皮膚疾患
(方解) 山帰来は別名を土茯苓・禹余糧といい清熱・解毒・利湿・
清血し、古典では梅毒の要薬である。茯苓は利尿し、忍冬
木通・大黃は消炎・利尿し、甘草は解毒する。

華蓋散料 (目標) 咳嗽・熱は無く乾いた咳がでるもの。
喀痰多く息苦しい・胃腸虚弱・食欲減少のもの。
(応用) 感冒・気管支炎・気管支喘息・百日咳
(方解) 麻杏甘石湯 去石膏 加茯苓・陳皮・桑白皮・紫蘇子
桑白皮・紫蘇子は呼吸困難・咳嗽に使用する。
茯苓・陳皮は胃内停水を去り健胃作用がある。

加減涼膈散料 (目標) 胃・食道に炎症があり口腔内や舌に潰瘍を生ずるもの。
(応用) 口内炎・アフター性口内炎・舌炎・胃炎・食道炎
(方解) 清熱薬より構成される。

黄連解毒湯（去黄柏）合四物湯（去川芎）加連翹・桔梗・薄荷・枳殼・甘草

黄連解毒湯及び連翹・桔梗・薄荷・甘草は清熱し炎症を止める。四物湯は補血し、栄養を補い、枳殼は清熱薬と一緒に使用すると清熱し炎症を止める効があらわれる。

藿香正気散料（目標）夏かぜ

体外は夏期の風寒（冷房・扇風機）に傷られ、体内は生冷の飲食に傷られ食毒、水毒のため頭痛・発熱・嘔吐・下痢するもの。

（応用）夏風邪・夏負け・急性胃腸炎・吐き下し・夏の下痢

（方解）水の停滞を治する二陳湯に、表を発し胃腸を調える芳香性健胃剤の藿香・厚朴などが配剤される。

葛根湯

（目標）悪寒・発熱・頭痛・項背部のこりを伴うものに用いる。

（応用）風邪・肺炎・気管支炎等の急性熱性伝染病の初期

化膿の初期・肩こり・五十肩・結膜炎・中耳炎・蓄膿症
蕁麻疹・神経痛・乳汁不足

（方解）桂枝湯に葛根・麻黄を加えたもの。

桂枝・麻黄・葛根は発汗・解熱に働く。麻黄は咳嗽・呼吸困難を止め、葛根は項背部の筋緊張を去り、芍薬・甘草は筋肉の痙攣を緩解する。大棗は滋潤栄養し、生姜は桂枝・麻黄・葛根を助ける。

★発汗に働く生薬により外表部の症状（表証）を解すので解表薬という。

葛根湯加辛夷川芎

（目標）葛根湯証で鼻閉・鼻汁の強いもの。

（応用）鼻閉・鼻炎・副鼻腔炎・蓄膿症・花粉症

（方解）葛根湯 加川芎・辛夷

川芎は血管拡張し排膿・頭痛緩解し、辛夷は鼻閉・鼻汁を治す。

葛根加半夏湯

（目標）葛根湯証で吐き気を伴うもの。

（応用）感冒の初期で咳嗽・多痰・悪心・嘔吐伴うもの。

（方解）葛根湯 加半夏

半夏は嘔吐を治し、痰飲（胃内停水）を去る。

葛根黄連黄芩湯

（目標）熱のある下痢の初期

項背こわばり心下が痞えるもの。喘鳴・発汗のあるもの

（応用）小児の下痢・急性腸炎・喘息・高血圧

(方解) 葛根は解熱し、消炎・収斂作用により下痢を止める。
黄連・黄芩は清熱・消炎し、甘草は消炎し諸薬を調和する。

葛根紅花湯 (目標) 酒查鼻の劇症のものに用いる。

(応用) 酒查鼻

(方解) 葛根は解熱・発汗する。芍薬・地黄・紅花は血行促進し、
黄連・山梔子・大黄は清熱する。甘草は諸薬を調和する。

加味温胆湯 (目標) 不眠症 胃腸虚弱で胃内停水があり、驚きやすく呼吸促迫するもの。

(応用) 不眠症・胃下垂症・胃アトニー症・病後衰弱・**神経症**

(方解) 温胆湯 加遠志・玄参・人参・地黄・酸棗仁

遠志・酸棗仁は精神を安定し不眠に用いる。

地黄・玄参は滋陰・滋潤・清熱する。人参は脾胃を補う。

★温胆湯より不眠の効が強い。

酸棗仁はフライパンで軽く炒った後粉碎器で砕いて使用

加味帰脾湯 (目標) 帰脾湯の証で身体が衰弱し、熱の出るもの。

(応用) 諸出血・貧血・不眠症・**健忘症**・**神経症**・**鬱病**

(方解) 帰脾湯 加柴胡・山梔子

柴胡は解熱し肝気鬱結を治す。山梔子は解熱・鎮静し不眠
や神経興奮を鎮める。

★肝気鬱結：胸苦しい・脇痛・食欲不振・煩悶・情緒不安定
等の症状

加味四物湯 (目標) 慢性化した下肢の痛み・諸痿症・四肢麻痺治する。

(応用) 神経痛・リウマチ・関節炎・脳溢血・脊髄炎・小児麻痺

(方解) 四物湯が基本となり、血を滋し津液を生じ湿熱を除く。

蒼朮は利尿し湿を去る。黄柏・黄連・知母は清熱し、牛膝・
杜仲は筋骨を強壯し痛みを去る。麦門冬・五味子は肺・腎を
補い滋養強壯する。

★大防風湯は陰証（冷え性で体力低下するもの）に用いる。

加味四物湯は陽証（体力のあるもの）に用いる。

加味逍遙散料 (目標) 虚症で神経症状を伴う婦人に多く用いる。

四肢倦怠・不眠・多怒・**月経異常**・午後の逆上感とのぼせ

(応用) 更年期障害・月経不順・不妊症・流産や中絶後の神経症状
手掌角皮症・湿疹・肝斑・肝炎・ヒステリー

(方解) 逍遙散料 加牡丹皮・山梔子

温性の駆瘀血・補血剤の当帰、緩和性鎮痙鎮痛・補血剤の芍薬、往来寒熱・胸脇苦満・肝の病を治する柴胡が主薬
牡丹皮は瘀血を去り清熱する。山梔子は清熱・鎮静する。

加味八脉散料

(目標) 鼻に悪臭のあるもの。嗅覚の消失したもの。
(応用) 悪臭性鼻炎・嗅覚消失性鼻閉塞
(方解) 蒿本は鎮痛作用があり鼻炎による頭痛を治す。猪苓・沢瀉
茯苓・木通は利尿作用があり、山梔子・知母・黄柏は清熱
作用がある。杏仁は鎮咳去痰作用があり呼吸を楽にする。

加味八疝湯

(目標) 手足のしびれ・或いは疼痛するもの。
(応用) 手足のしびれ感・運動麻痺・脳溢血の麻痺と疼痛・
顔面神経麻痺
(方解) 四物湯 合六君子湯が基本となり補血し補気健脾し防風・秦艽
羌活・牛膝が疼痛を止め桂枝が血行促進し、柴胡は芍薬とと
もに疏肝鎮痛する。

栝楼薤白白酒湯

(目標) 心臓部の痛みや背部に放散痛があり、喘息・咳嗽・喀痰
呼吸困難・胸内苦悶し、また嘔吐するもの。
(応用) 狭心症・心不全・心臓性喘息・心臓弁膜症・心筋梗塞
(方解) 痰飲(水の停滞)を去り胸痺(胸の支えと痛み)を治す
栝楼仁と、中を温め氣滯をめぐらす薤白、血行を促す白
酒よりなる。
水250ml・二級酒250mlを40分で200mlに煎じる。
★白酒は酢のことだが二級酒で代用する。

栝楼枳実湯

(目標) 痰が切れにくく、早朝より正午までの咳嗽が強いもの。
呼吸困難・胸痛が甚だしく、主に老人や喫煙家に多く用いる。
(応用) 気管支炎・気管支喘息・肺炎・喫煙家の咳嗽
(方解) 梔子・黄芩で肝熱を去り、栝楼仁・貝母は燥痰を潤し、陳皮
枳実・桔梗・縮砂・木香は胸中の氣を開き痰飲の滞りを散じ
肝・胃の熱を解する。

乾姜人参半夏丸料

(目標) 吐き氣・嘔吐。消化機能の衰えたものに用いる。
(応用) つわり・胃炎・胃アトニー
(方解) 乾姜は裏寒を去り、人参は補気健脾し、半夏は嘔吐を
止める。

甘草湯

(目標) 急迫を緩解する。
(応用) 胃痙攣・咽喉炎・痙攣性咳嗽・嗝声・潰瘍痛

(方解) 生甘草単味よりなる。急迫を緩め急激な攣縮によって生じる疼痛及び急迫的症状を緩解する。

水200mlを30分で100mlに煎じる。

★生甘草は炙甘草に比べて消炎効果が強い。

炙甘草は甘草を炙ったもので、主に補気や中和に使用する。

★甘草湯はうがい薬や湿布薬として外用にも用いる。

甘草黄連石膏湯 (目標) 口渴・煩熱を伴う種々の疾患

★まくり(新生児の胎毒)の解毒に使用する。

(応用) アトピー性皮膚炎・癩癩・精神科疾患

(方解) 甘草は急迫を治し、黄連・石膏は煩熱を去る。

甘草乾姜湯 (目標) 尿意頻数・希薄な唾液分泌過多

陽氣が虚し手足厥冷し、胸苦しく嘔吐するもの。

(応用) 老人などで小便が近く涎を垂らしているもの・遺尿症

夜尿症・尿道炎・小児のよだれ・凍傷

(方解) 甘草で急迫を緩め、乾姜で刺激興奮させ活力をつける。

甘草瀉心湯 (目標) 半夏瀉心湯証に下痢・腹鳴・心煩を伴うもの。

(応用) 胃腸炎・口内炎・下痢・不眠症

(方解) 半夏瀉心湯の甘草を増量したもので、急迫症状を緩和して心煩を治す。

甘草附子湯 (目標) 四肢の筋肉や関節の急性の激痛

風・湿による激痛を治す。関節が腫れ悪風・自汗・利尿減少のあるもの。

(応用) 急性リウマチ・神経痛・関節炎・感冒

(方解) 桂枝は風を去り蒼朮は湿を去る。附子は新陳代謝を亢進し寒を去り疼痛を治す。甘草は急迫を去り疼痛を治す。

甘草麻黄湯 (目標) 急迫的な咳嗽で、浮腫を伴い呼吸困難のもの。

(応用) 喘息の発作

(方解) 甘草・麻黄からなり麻黄のephedrine・pseudo-ephedrineは気管支平滑筋を弛緩し呼吸困難・咳嗽を治す。

水200mlを5～10分で100mlに煎じる。頓用

甘麦大枣湯 (目標) 両直腹筋、特に右側が攣急し神経の興奮の甚だしいもの。

★主に婦人に適応

(応用) 幼児の夜泣き・不眠症・胃痙攣・あくびの頻発・

ヒステリー・ノイローゼ・癩癩・躁鬱病

(方解) 甘味の剤で構成され(小麦・甘草・大棗) 急迫を緩め心気を養う。特に小麦は脳神経の興奮を鎮める作用がある。

黄耆建中湯 (目標) 化膿創や膿瘍で難治性のもの。表裏・気血ともに虚したもの。
黄耆建中湯よりさらに虚したもの。

(応用) 虚弱児・病後の衰弱・痔瘻・膿瘍・慢性潰瘍・化膿性疾患

(方解) 小建中湯 去膠飴 加黄耆・当帰

桔梗湯 (目標) 咽喉の腫痛。咳嗽と喀痰を伴うもの。

(金匱要略) (応用) 咽喉炎・扁桃炎・肺膿瘍

(方解) 甘草湯 加桔梗

甘草で咽喉痛を去り桔梗で排膿・喀痰する。

桔梗湯 (目標) 肺壞疽が慢性化し、気血衰え衰弱したもの。

(外台秘要) (応用) 肺壞疽・肺膿瘍・気管支拡張症

(方解) 桔梗・薏苡仁・敗醬根は排膿し、桑白皮は鎮咳し、地黄・

当帰は血を補い、木香は気をめぐらす。甘草は中を和す。

帰脾湯 (目標) 心脾の虚(胃腸虚弱者が身心過労でおこす)で、貧血
心悸亢進・健忘・不眠・諸出血があり神経症状を伴うもの。

(応用) 諸出血による貧血と衰弱・不眠症・健忘症・ヒステリー

(方解) 人参・黄耆・白朮・茯苓・大棗・甘草は健胃強壯する。

龍眼肉・遠志・酸棗仁は心を養い神経を鎮静する。

当帰は補血し、木香は気をめぐらす。

芎歸膠艾湯 (目標) 出血が続き貧血するもの。虚症で冷えと瘀血があり下腹部が
知覚鈍麻・疼痛するもの。

(応用) 子宮出血・子宮内膜炎・流産の前兆・産後出血・月経過多・
帯下・痔出血・血尿

(方解) 四物湯に阿膠・甘草・艾葉を加えたもの。

阿膠・艾葉は止血と安胎の効がある。

阿膠は煎じて滓を濾したものに加えて溶かす。

芎歸調血飲 (目標) 産後の諸症状を去り元気を回復する。

(万病回春) 一貫堂の産後に気血を調理する常用処方 腹部は軟らかい

★下腹部の抵抗圧痛のあるものには第一加減を用いる。

(応用) 産後の貧血・血の道症・乳汁分泌不足・脚気・神経症

(方解) 瘀血を去り補血する四物湯 去芍薬 加牡丹皮・益母草と補気
健脾する四君子湯 去人参(乾姜使用) 加烏薬・香附子から
構成される。烏薬・香附子は鎮痛作用があり又消化吸収を

促進する。

芍婦調血飲第一加減 (目標) 産後の補養に使用する一貫堂の常用処方
(一貫堂) 下腹部の抵抗圧痛のあるもの。

(応用) 産後の貧血・乳汁分泌不足・神経症

(方解) 芍婦調血飲に瘀血を去り補血する芍薬・桃仁・紅花牛膝と、気をめぐらし消化吸收促進する枳殻・木香延胡索と、寒を去る桂枝が加わり薬効を増加させたもの。

響声破笛丸料 (目標) 嘔声

(応用) 発生過度のための嘔声

(方解) 訶子は咽喉炎を治し、薄荷・阿仙薬・甘草は消炎し、連翹桔梗は排膿し、縮砂・川芎は寒を去り血行促進して鎮痛する。大黄は抗菌消炎・瀉下の効がある。

玉屏風散料 (目標) 風邪をひきやすいもの。体表部の防御機能低下(表虚・衛虚)で自汗・疲れやすい・息切れ・寒気の症候のあるもの。

(応用) 多汗症・アレルギー性鼻炎・風邪にかかりやすいもの。

(方解) 主薬は黄耆で汗腺機能を調整し皮膚を栄養する。防風がこれを助ける。黄耆・白朮で気虚を治し全身の機能低下を改善する。

祛風敗毒散料 (目標) 疥癬・湿疹・ニキビなどの皮膚疾患

(応用) タムシ・湿疹・ニキビ

(方解) 連翹・防風・牛蒡子・荊芥・羌活・甘草は清熱・抗菌作用があり皮膚表面の病邪を解する。

銀翹散料 (目標) 熱感の強い感冒で、発熱・頭痛・咽痛・口渴のあるもの。

(応用) 感冒・インフルエンザ・咽喉炎・扁桃炎・耳下腺炎・気管支炎などで表熱を呈するもの。

(方解) 辛涼解表の薄荷・香鼓・牛蒡子・荊芥と清熱解毒の竹葉・芦根・金銀花・連翹と喉の炎症を去る桔梗・甘草からなる。

龜板湯

(目標) 痿躄(両脚四肢の運動麻痺)を治する。

(応用) 産後の両脚運動麻痺・脊椎炎・脊椎カリエス

(方解) 四物湯 加龜板・石決明

四物湯で血行を促進し機能を回復し、龜板の補腎作用により筋骨を強壮にし、石決明でふらつきを去る。

苦参湯

(目標) 皮膚の痒み

(応用) 陰部のただれ・湿疹・あせも・水虫・たむし・皮膚搔痒症

(方解) 苦参はクララの根で抗菌作用がある。

苦参6gに水500mlを加えて300mlとし滓を去り洗淨剤、湿布剤として外用する。

驅風解毒散料

(目標) 咽喉の腫痛に用いる。

(応用) 咽喉炎・扁桃周囲炎・口内炎・耳下腺炎

(方解) 防風・荊芥・羌活は身体上部の熱を去り、連翹・牛蒡子は解毒し、甘草は消炎の効がある。

冷服し、うがいをしながら服用するほうが良い。

九味半夏湯

(目標) 留飲(水分の代謝が悪く肥満した状態)が原因の麻痺・痙攣運動障害

(応用) 四肢の運動・知覚麻痺

(方解) 半夏・陳皮・茯苓は胃内停水を去り猪苓・沢瀉は利尿する。

柴胡・升麻は升提作用があり弛緩した内臓の筋肉を引き締める。甘草・生姜は消化促進する。

九味檳榔湯

(目標) 脚気で浮腫・動悸・呼吸困難を伴うもの。

(応用) 脚気・関節水腫・胃炎・胃腸神経症

(方解) 気を順らし気滯を通じ水毒を去る薬より成る。

檳榔子は消化促進し大黃とともに体内の水分を瀉下によって除く。厚朴・桂枝・紫蘇葉・木香・陳皮・生姜は胃腸の消化吸収を促進し、気をめぐらす。甘草は諸薬を調和する。

下瘀血湯

(目標) 長く停滞した瘀血症状

(応用) 月経不順・無月経・子宮筋腫・骨盤内血腫

(方解) 蟅虫は血液凝固を抑制し毛細管を拡張する。桃仁は血行促進し、大黃は血流分布を調整し瀉下効果がある。

細末として水400mlを20分～30分で200mlに煎じる。

荊芥連翹湯

(目標) 耳の腫れや痛みに用いる。

(万病回春) (応用) 中耳炎・外耳道炎

(方解) 四物湯 去地黄で補血し、山梔子・黄芩・荊芥・連翹・防風 枳殼・柴胡・甘草で清熱解毒し頭部の鬱熱を冷まし、白芷 桔梗で化膿を抑制する。

★一貫堂の荊芥連翹湯から地黄・黄連・黄柏・薄荷を去る。

荊芥連翹湯 (目標) 耳鼻咽喉・肺の慢性炎症 一貫堂流の解毒症体質に使用する。
(一貫堂) 肝機能低下の者の体質改善薬で、皮膚の色がドス黒く光沢を帯び、手足の裏に油汗が多いもの。

★幼年期に柴胡清肝散症だった者が青年期になると用いる。
(応用) 蓄膿症・中耳炎・上顎洞化膿症・扁桃炎・禿髮症・皮膚炎
(方解) 肝機能を増強する温清飲に荊芥・連翹・防風・薄荷・枳殻
甘草・白芷・桔梗・柴胡を加えて頭部の鬱熱を冷まし化膿症を抑制する。

桂姜棗草黄辛附湯 (目標) 腰痛・関節痛・頭痛・発熱・喘咳・悪寒するもの。
気血両虚に寒を兼ね、心下に停水があり気が滞ったもの。

★大気一転の法といい諸病難症痼疾となり治療の道が壮絶したものを一転打解する時使用

(応用) 感冒・気管支炎・神経痛・腰痛・リウマチ

(方解) 胸満と表邪を解する桂枝去芍薬湯と、寒邪を温散する麻黄附子細辛湯の合方で、表裏陰陽の転変を調和する。

桂枝湯 (目標) 太陽病で脈浮弱・悪寒・悪風・発熱・頭痛・自汗・身体疼痛するもの。気の上衝するもの。

(応用) 風邪の初期・頭痛・神経痛・寒冷による腹痛・下痢

(方解) 主薬の桂枝が気をめぐらし、表を解し、上衝を鎮める。
芍薬は血行を良くし、甘草と共に筋緊張や疼痛を治す。

桂枝加黄耆湯 (目標) 桂枝湯証で発汗の多いもの。
(応用) 虚弱児の感冒・湿潤性の皮膚病・あせも・盗汗・多汗症
(方解) 桂枝湯 加黄耆
黄耆は補気し、肌表をひきしめ皮膚の抵抗力強くする。

桂枝加葛根湯 (目標) 桂枝湯証で項背部の緊張するもの。

(応用) 肩こり

★麻黄の適さないものに使用する。

(方解) 桂枝湯 加葛根

葛根は解熱作用があり項背部の緊張を緩解する。

桂枝加厚朴杏仁湯 (目標) 桂枝湯証で喘咳するもの。

(応用) 喘息

★麻黄の合わない虚弱なものの喘息に使用する。

(方解) 桂枝湯 加厚朴・杏仁

杏仁は鎮咳・去痰作用があり厚朴がこれを助ける。

桂枝加芍薬湯 (目標) 桂枝湯証で腹筋が拘攣し腹痛するもの。

(応用) 腹痛・下痢・腸炎

(方解) 桂枝湯 加芍薬

芍薬は鎮痙鎮痛作用がある。

桂枝加芍薬大黃湯 (目標) 桂枝加芍薬湯の証で便秘のもの。

(応用) 痙攣性便秘・結腸炎・裏急後重を伴う下痢

(方解) 桂枝湯 加芍薬・大黃

大黃は瀉下作用がある。

★大黃は消炎抗菌作用もあり、少量で下痢にも用いる場合がある。

桂枝加朮附湯 (目標) 桂枝湯証で寒と湿による痛みや痺れのあるもの。

(応用) 関節炎・腰痛証・リウマチ・肩関節周囲炎

(方解) 桂枝湯 加蒼朮・附子

蒼朮は湿を去り、附子は寒を散じる。

桂枝加附子湯 (目標) 桂枝湯証で発汗過度で悪寒し、利尿快通せず四肢のこわばるもの。虚弱体質で冷え性のもの。

(応用) 感冒・神経痛・関節痛・冷え腹・手足の冷え

(方解) 桂枝湯 加附子

附子は裏寒を去る。

桂枝加竜骨牡蠣湯 (目標) 顔色が悪くて元気がなく、不安感・不眠・動悸・神経過敏・多夢・夢精のあるもの。

(応用) 自律神経失調症・不眠症・性的過労・陰萎・遺精

(方解) 桂枝湯 加竜骨・牡蠣

竜骨と牡蠣はがカルシウムを含み鎮静・安心作用によって脳の興奮性をしずめる。

桂枝加苓朮附湯 (目標) 桂枝加朮附湯証で浮腫があるもの。

(応用) 関節炎・腰痛・リウマチ

(方解) 桂枝加朮附湯 加茯苓

茯苓は利尿作用があり水毒を去る。

桂枝甘草竜骨牡蠣湯 (目標) 心悸亢進・のぼせ

(応用) 心悸亢進・神経症の不安発作・バセドウ病・火傷

(方解) 桂枝は上衝を去り、甘草は急迫症状を去る。

竜骨・牡蠣は鎮静安心する。

桂枝五物湯 (目標) 歯痛・口舌び爛・歯肉炎・歯槽膿漏
(応用) 歯痛・口内炎・歯槽膿漏
(方解) 桔梗は排膿促進し、桂枝は発汗し血行促進する。黄芩は清熱し、茯苓は利尿し、地黄は補血し栄養滋潤する。

桂枝芍薬知母湯 (目標) 関節の腫れや疼痛。筋肉が萎縮し鶴の膝のようなもの。
頭眩・短気・吐き気のあるもの。
(応用) 関節リウマチ・関節炎
(方解) 桂枝・防風・麻黄は発汗・鎮痛し、知母は清熱し、芍薬・甘草は鎮痙鎮痛し、白朮は浮腫を去る。
附子は寒を去り消炎鎮痛する。生姜は消化促進する

桂枝二越婢一湯 (目標) 関節が痛み熱感を帯びるもの。
大青竜湯より虚証で、悪寒より熱感の方が強いもの。
(応用) 関節リウマチ・関節炎・神経痛
(方解) 桂枝湯 加石膏・麻黄 (大青竜湯 去杏仁 加芍薬)
麻黄は解熱・発汗し、石膏は熱を冷ます。

桂枝人参湯 (目標) 表熱があり頭痛・発熱・発汗・悪風し、裏寒があり下痢するもの。心下痞硬し、虚証のもの。
★人参湯の裏寒の証に表証を兼ねるもの。
(応用) 風邪・冷え性の人軟便、下痢・大腸炎・頭痛
(方解) 人参湯 加桂枝
桂枝で表証を治し、白朮・乾姜で体内の寒と水を去り人参で心下痞硬を治し胃気を補う。

桂枝茯苓丸料 (目標) 下腹部に瘀血があり充実した抵抗を触れるもの。
実証で赤ら顔の婦人に多く使用する。
(応用) 子宮筋腫・子宮内膜炎・月経痛・月経不順・不妊症・
にきび・打撲・痔・盲腸
(方解) 桂枝は上衝を治し気血をめぐらし、茯苓は水分の停滞を治し、桃仁・牡丹皮・芍薬は瘀血を去り凝結を去る。

桂枝附子湯 (目標) 甘草附子湯の証で表証の強いもの。
発熱し四肢煩疼するもの。
(応用) 神経痛・リウマチ・感冒の四肢疼痛
(方解) 甘草附子湯 去蒼朮 加大棗・生姜

桂枝麻黄各半湯 (目標) 頭痛・悪寒・発熱・咳嗽・皮膚搔痒など、風寒による症状があり全身の倦怠感が強いもの。

(応用) 風邪・蕁麻疹・皮膚搔痒症

(方解) 葛根湯と麻黄湯を半量ずつ合わせたもので、項背のこわばりはあまりなく、麻黄湯では強すぎる者に使用する。

啓脾湯

(目標) 虚証で脾胃虚弱の水瀉性下痢

(応用) 小児の消化不良・水瀉性下痢・胃腸炎・病後の胃腸強壯薬

(方解) 四君子湯 加山査子・陳皮・蓮肉・沢瀉

四君子湯で脾胃を補い、山査子・陳皮は消化を助ける。蓮肉は脾胃を補い止瀉し、沢瀉は湿を去る。

荊防敗毒散料

(目標) 化膿症の初期

悪寒・発熱・頭痛・発赤・腫脹・疼痛のもの。

(応用) 癰疽・乳腺炎・乳癌・頭瘡・蕁麻疹・疥癬・上顎洞化膿症
湿疹・アレルギー性体質

(方解) 辛温解表する荊芥・防風・生姜、風湿を去る羌活・独活、利水する茯苓、化痰止咳する前胡・桔梗、桔梗は排膿作用もある。血行を促進する川芎、消炎・鎮痛の柴胡・薄荷、理気の枳殻および甘草からなる。

血府逐瘀湯

(目標) 瘀血で頑固な固定性の鈍痛・刺痛や・慢性的に反復する出血腫瘍があり顔色がどす黒く、皮膚がかさつき、肩こりのぼせ・いらいら・動悸のみられるもの。

(応用) 頭痛・胸痛・諸出血・子宮筋腫・月経困難症・狭心症・肝炎不眠症

(方解) 瘀血を去り血行促進する桃仁・紅花・赤芍・川芎・牛膝と補血の当歸・地黄、疏肝理気の柴胡・枳殻・桔梗および甘草からなる。

堅中湯

(目標) 虚勞内傷し胃内停水・食後腹痛・嘔吐や吐き気のあるもの。

(応用) 胃潰瘍・慢性胃炎・十二指腸潰瘍・胃拡張

(方解) 小建中湯 (生姜を乾姜に変える・去膠飴) 加半夏・茯苓

甲字湯

(目標) 瘀血があり腰背部攣急・手足引痛・頭痛のあるもの。

(応用) リウマチ・坐骨神経痛

(方解) 桂枝茯苓丸料 加甘草・生姜

香砂平胃散料

(目標) 脾胃虚弱で心下痞・吐き気・消化不良・腹部膨満感のあるもの。

(応用) 胃炎・消化不良・胃酸過多症・胃アトニー症

(方解) 平胃散 加香附子・縮砂・藿香

香砂六君子湯 (目標) 胃腸虚弱体質で特に心下部のつかえが強く気鬱し食欲不振宿食のあるもの。

(応用) 胃炎・胃下垂・胃潰瘍・消化不良

(方解) 六君子湯 加香附子・縮砂・藿香

香蘇散料 (目標) 胃腸虚弱な人の感冒 心下に痞えがあり気滞のある感冒 神経質で憂鬱・食欲不振・精神不安・頭痛のあるもの。

(応用) 風邪・神経衰弱・魚中毒・腹痛・アレルギー性鼻炎・不眠

(方解) 香附子・紫蘇葉・陳皮・生姜は気を行らし発散する。

甘草は諸薬を調和する。

厚朴七物湯 (目標) 発熱が続き、腹が張って消化不良を起こしているもの。

(応用) 消化不良・便秘症

(方解) 小承気湯(厚朴・大黄・枳実)加甘草・大棗・生姜・桂枝

大黄は瀉下し、厚朴・枳実は腹部膨満感をのぞく。

甘草・大棗・生姜・桂枝は消化促進する。

厚朴生姜半夏甘草人参湯 (目標) 胃の機能が低下し、腹中にガスと水が停滞し、心下や腹が張って痛むもの。

食欲不振で食べると嘔吐し大便の通じないもの。

(応用) 胃下垂・胃拡張・胃手術後の通過障害

(方解) 厚朴は腹部膨満を去り消化不良を治す。

半夏は痰飲を去り嘔吐を止める。人参・甘草は補気健脾し、生姜は消化吸収を助ける。

厚朴麻黄湯 (目標) まだ体力のあるもので、腹満があり脈にも腹にも力があり、咳が出て呼吸困難のあるもの。

(応用) 気管支炎・気管支喘息・肺気腫

(方解) 小青竜湯 去桂枝・芍薬・甘草 加石膏・小麦・厚朴・杏仁

小麦は咽の渇きや口内の乾燥を止め利尿し、精神を安定させる。石膏は熱を去り、厚朴・杏仁は鎮咳する。

杞菊地黄丸料 (目標) 肝と腎が虚して、眼がかすむ・眼が眩む・まぶしい・目の乾燥・視力減退・頭痛などの眼症状に用いる。

(応用) 疲れ目・白内症などの眼疾患・高血圧・自律神経失調症

(方解) 六味丸 加枸杞子・菊花

清熱し目の症状を去る菊花と、肝腎を補い目の症状を去る

枸杞子を加え眼症状を緩解する。

五虎湯

(目標) 咳嗽が強く、喉痛・自汗・口渴・呼吸困難のあるもの。

(応用) 気管支炎・喘息・百日咳・肺炎

(方解) 麻杏甘石湯 加桑白皮

麻黄は主成分エフェドリンを含み、杏仁と共に治喘する。

石膏は熱をさまし麻黄と組んで止汗する。甘草は諸薬を調和し、桑白皮は消炎・鎮咳に働く。

五虎二陳湯

(目標) 呼吸困難・咳嗽・口渴・心下に停飲・嘔気があり食欲不振のもの。

(応用) 小児喘息・小児の気管支炎

(方解) 麻杏甘石湯 加二陳湯(半夏・茯苓・陳皮) 加桑白皮

五虎湯に胃内停水による嘔吐・悪心を去る二陳湯が加わる。

五積散料

(目標) 気・血・痰・寒・食の五積を治す。

虚証で貧血気味、寒冷と湿気による諸病に使用する。

下肢が冷えて痛み、上部に熱のあるもの。

(応用) 胃腸炎・胃潰瘍・腰痛・リウマチ・脚気・月経痛・冷え性

(方解) 平胃散料(蒼朮・陳皮・厚朴・甘草・大棗)で飲食の停滞を散じ、二陳湯(半夏・茯苓・陳皮)で胃内停水、痰飲を去る。四物湯 去地黄(当帰・芍薬・川芎)で補血し、麻黄湯 去杏仁(桂枝・麻黄・甘草)および乾姜・白芷は寒冷を温め風邪を発散し血行をよくする。桔梗は消炎・排膿・去痰作用がある。

牛車腎気丸料

(目標) 下焦の腎気(腎臓・副腎・生殖の機能)が虚して、特に下半身が麻痺し、浮腫や小便不利の顕著なもの。

煩熱・口渴があり疲労倦怠感が強く、手足が冷えやすいもの。

★中年以降の老齡者に頻用される。

(応用) 腎炎・ネフローゼ症候群・鬱血性心不全・脳出血・高血圧腰痛・糖尿病・下肢麻痺

(方解) 八味丸料 加牛膝・車前子

八味丸料によって諸循環機能を高め、牛膝は筋骨を強め、車前子とともに利尿作用を強める。

真茱萸湯

(目標) 頭痛・嘔吐に用いる。虚証で手足厥冷・煩燥があるもの。

裏寒し胃に寒水があり気が動揺し興奮状態を呈するもの。

(応用) 頭痛・嘔吐・吃逆・冷え性・生理痛

(方解) 呉茱萸が主薬で、苦辛温の作用により寒水を逐い、気の上衝を降下し、制吐する。人参は心下痞を治し裏虚を補う。ひね生姜を加える。

五淋散料

(目標) 膀胱に熱があり、淋瀝・難尿・血尿・膿尿・混濁尿を治す。
(応用) 尿道炎・膀胱炎・膀胱結石・腎臓結石・虫垂炎
(方解) 茯苓は利水作用があり、山梔子・黄芩は解熱・消炎・抗菌し芍薬・当帰は補血・鎮静・鎮痛する。甘草は諸薬を調和する
★五淋散加味は五淋散料 加地黄・沢瀉・木通・滑石・車前子で利尿・消炎・抗菌作用がより強くなっている

五苓散料

(目標) 口渴・小便不利・嘔吐・頭痛・眩暈・表熱のあるもの。胃内停水があり水逆するもの。
(応用) 口渴と嘔吐・急性胃腸炎・胃下垂・乗り物酔い・二日酔い・日射病・頭痛・脱毛症・浮腫
(方解) 水分の遍在を調べ尿利に導く利水の剤から構成される。猪苓・沢瀉は小便を利し渴を除く。茯苓・白朮も水を利用し胃内停水を去る。桂枝は肌表の邪を発散し上衝を去る。

<サ行>

麻葛解肌湯

(目標) 麻黄湯・葛根湯の二つの証が解消せず小陽の部位に邪が進み嘔や渴が甚だしく四肢煩疼するもの。
頭痛・口渴・不眠・鼻乾き
(応用) 流行性感冒・肺炎・諸熱性病・肝気のたかぶり
(方解) 葛根湯 合小柴胡湯 加石膏
太陽と少陽と陽明の合病を治す。石膏は陽明の熱をさます。

柴陷湯

(目標) 小柴胡湯証に咳嗽・胸痛・胸内苦悶・黄色粘稠な痰・口乾の伴うもの。
(応用) 気管支炎・咽喉炎・肺炎・肋膜炎・感冒
(方解) 小柴胡湯 合小陷胸湯(半夏・瓜呂仁・黄連)
瓜呂仁は消炎・抗菌・去痰作用がある。黄連も抗菌・消炎作用がある。半夏は去痰を強める。

柴胡加竜骨牡蠣湯

(目標) 大柴胡湯と小柴胡湯の中間で、胸脇苦満・心下部の抵抗がある。上衝・心悸亢進・不眠・煩悶があり、臍部で動悸がある。驚きやすく、いらいらして怒りやすい気分がむらがあり落ちつきがない。小便不利・便秘の傾向がある。動作が鈍く疲労感が強い。
(応用) 神経質・不眠症・血の道症・動脈硬化症・高血圧・

狭心症・神経衰弱・ヒステリー・神経性陰瘻

(方解) 柴胡は黄芩とともに胸脇苦満を去り、竜骨・牡蠣は動悸を鎮め、不眠・驚狂等の神経症状を治す。茯苓は利尿をよくし半夏とともに胃内停水を去る。大黄は内部の気をめぐらし腸管を疎通し消炎鎮静する。

柴胡桂枝湯 (目標) 小柴胡湯証に表証を兼ねたもの。

頭痛・発熱・微悪寒・悪心・嘔吐があり心下部や下腹部に緊張があり、苦満疼痛するもの。

(応用) 感冒・肺炎などの熱性疾患・胃痛・胃潰瘍・虫垂炎・肝炎
胆石症・神経症

(方解) 小柴胡湯 合桂枝湯

小柴胡湯は少陽の邪を解し胸脇苦満を去る。桂枝湯は太陽の表熱症状を治す。

柴胡桂枝乾姜湯 (目標) 小柴胡湯証に準じ虚弱で体力の衰弱するもの。

胸脇満微結し、表熱裏寒・水分不足のため乾燥し気の上衝があり、心悸亢進・息切れ・口渴・往来寒熱(熱が出たり下がったりする)・乾咳・頭汗・大便軟・利尿減少するもの。

(応用) 感冒・肺結核・気管支炎・肋膜炎・癰疽・痔瘻・肝炎
神経衰弱・更年期障害

(方解) 柴胡・黄芩は胸脇部に作用し解熱・鎮静する。桂枝は表証と気の上衝を治し牡蠣とともに動悸を鎮め盗汗を止める。乾姜は裏寒を温め、瓜呂根は水分を潤し、止渴・鎮咳する。

柴胡四物湯 (目標) 発熱性疾患の後血熱の去らないもの。

小柴胡湯証で血虚を伴うもの。

(応用) 産褥熱・腎盂炎・マラリア・胃潰瘍の出血

(方解) 小柴胡湯 合四物湯

柴胡清肝湯 (目標) 肝・胆・三焦の風熱を治す。(咽喉・頸部・耳の炎症)

(一貫堂) 瘦せ型・筋肉型で皮膚の色が浅黒く汚くくすんでいるもの。
両腹直筋の緊張があり触るとくすぐったがるもの。

★一貫堂では、小児の体質改善薬として、リンパ腺の炎症しやすいものに使用する。

(応用) 肺門リンパ腺腫・頸部リンパ腺腫・扁桃炎・咽喉炎・皮膚病

(方解) 四物湯 合黄連解毒湯 加桔梗・薄荷・牛蒡子・瓜呂根

温清飲は清熱補血に働き、桔梗は咽喉・胸膈の熱を去り、

牛蒡子・薄荷は清熱し皮膚発疹を解す。瓜呂根は燥を潤し腫れを消し排膿する。

柴胡疎肝湯 (目標) 四逆散証で肝気がつまって胸や側胸部が痛み、衝逆して頭痛 (統旨) し肩背こわばるもの。

(応用) 肋間神経痛・腫瘍による痛み・月経痛

(方解) 四逆散料 加香附子・川芎・青皮 (枳実を枳殻にかえる) 香附子・青皮は気をめぐらし疼痛を去る。川芎は血行促進し鎮痛・鎮静効果がある。

柴胡疎肝湯 (目標) 左脇下から下腹部かけて瘀血を触れ、圧痛があるもの。

(一貫堂) (応用) 不正性器出血・子宮筋腫・虫垂炎・痔疾・便秘

(方解) 四逆散 合四物湯 合桃核承気湯 加牡丹皮・紅花・青皮 (枳実を枳殻にかえる)

牡丹皮は瘀血を去り消炎する。紅花は瘀血を去り疼痛を治す

柴芍六君子湯 (目標) 六君子湯証で、腹直筋の拘攣と胸脇苦満があり腹痛を伴うもの。

(応用) 胃炎・胃下垂症・胃アトニー・肝臓疾患・脾臓炎・神経症

(方解) 六君子湯 加柴胡・芍薬

柴朴湯 (目標) 小柴胡湯証に咳嗽・咯痰・呼吸困難・悪心・嘔吐を伴うもの。

(応用) 発作が起きないかと気にしすぎる気管支喘息・感冒

気管支炎・神経衰弱・ノイローゼ

(方解) 小柴胡湯 合半夏厚朴湯

柴苓湯 (目標) 小柴胡湯証に口渴・尿量減少・嘔吐・下痢・浮腫を伴うもの。

(応用) 慢性腎炎・ネフローゼ・煩渴・下痢・暑中の疫病・リウマチ肝炎

(方解) 小柴胡湯 合五苓散

三黄瀉心湯 (目標) のぼせ・顔面紅潮・便秘気味・気分がいらいらして落ちつかず精神不安がある・諸出血・充血炎症性の上衝があるもの。

(応用) 高血圧・動脈硬化・脳溢血・眩暈・耳鳴・吐血・歯根出血・子宮出血・眼底出血・打撲・歯痛・酒渣鼻・結膜炎・蕁麻疹

便秘・二日酔い・ノイローゼ

(方解) 消炎と瀉下の剤

黄芩・黄連は炎症と充血を消散させ、心下部の閉塞感を除き鎮静する。大黄は瀉下し、また消炎作用もあり黄芩・黄連を助ける。

熱湯100mlで3分煮沸し滓を去り頓服する。

酸棗仁湯

(目標) 虚勞で、虚煩し眠れないもの。体力が衰え元気がなく、腹も脈も虚状を呈し、胸中苦しく煩えて眠ることができないもの。虚勞からくる嗜眠

(応用) 不眠症・嗜眠症・盗汗・驚悸・心悸亢進症・眩暈・多夢・**神経症**・**神経衰弱**・**健忘症**

(方解) 主薬は酸棗仁で、神経の興奮を鎮静し催眠を促す。知母・甘草は熱を冷まし燥を潤す。茯苓・川芎は氣を行らし停飲をのぞく。

三物黄芩湯

(目標) 手足の煩熱 血熱が全身に及び手足がほてって苦しいもの。

(応用) 産辱熱・肺結核・不眠症・口内炎・吐血・下血・凍傷・蕁麻疹・水虫・乾癬・**神経症**

(方解) 黄芩が消炎・健胃し、苦参が解熱・利尿・殺菌する。地黄は血熱をさます。

滋陰降火湯

(目標) 夜間に出る咳 陰虚で熱症状のあるもの。

皮膚が浅黒く、大便秘結し、乾性ラ音を出すもの。

(応用) 気管支炎・肺結核・肋膜炎・腎炎

(方解) 当帰・芍薬・地黄・天門冬・麦門冬は補血・補陰し、白朮・甘草・陳皮は消化吸収を強め、知母・黄柏は解熱・消炎する。天門冬・麦門冬は鎮咳去痰作用を持つ。

滋陰至宝湯

(目標) 慢性の咳嗽

結核や不明の微熱が長引き衰弱傾向にあるもの。

(応用) 慢性気管支炎・肺結核・気管支拡張症

(方解) 逍遙散料 加麦門冬・貝母・知母・地骨皮・香附子・陳皮 麦門冬は滋養強壯し、貝母とともに消炎・鎮咳・去痰作用を有す。知母・地骨皮は解熱・消炎作用を有す。香附子・陳皮は理気剤で、脾胃の機能を促進する。逍遙散料は肝気鬱結・血虚・脾虚を改善する。

四逆散

(目標) 胸脇苦満と腹直筋の攣急があり、痢のたかぶり・腹痛を訴えるもの。大柴胡湯証と小柴胡湯証の間

(応用) 胆嚢炎・胆石・胃炎・胃潰瘍・肋膜炎・**ヒステリー**・**癲癩**

(方解) 柴胡は胸脇苦満を治し、枳実は氣を開き凝結を破る。芍薬は瘀血を去り、甘草とともに四肢の筋肉の痙攣を緩め急迫症状を緩和する。

四逆湯

(目標) 新陳代謝が極度に低下しているものを回復するときに使用
四肢は厥冷・身体疼痛・下痢・嘔吐するもの。

(応用) 感冒・下痢・吐瀉病・食中毒・胃腸炎・しゃっくり・コレラ

(方解) 附子は寒冷を温め、冷え・疼痛を去り水の停滞をめぐらす。
乾姜は裏寒を温める。甘草は虚を補い消化機能を促進する。

四逆加人参湯

(目標) 四逆湯証で疲労と貧血が甚だしいもの。

(応用) 諸出血

(方解) 四逆湯 加人参

四君子湯

(目標) 元気が衰え、胃腸虚弱のもの。

(応用) 胃腸虚弱・食欲不振・貧血・嘔吐・下痢

(方解) 人参湯 去乾姜 加茯苓・大棗・生姜

人参は五臓の元気を補い脾胃の元気をつける。白朮・茯苓は胃内停水を去る。

紫根牡蠣湯

(目標) 皮膚やリンパ腺の頑固な疾患で慢性痼疾となり虚証に陥り貧血・疲労傾向のあるもの。

(応用) 乳腺症・頸部リンパ腫・腸腫瘍・扁平コンジローム・乳癌
扁平コンジローム：扁平隆起性湿潤性丘疹

(方解) 紫根は血熱毒をさまし、乾癬悪瘡を治す。忍冬・升麻は解熱解毒し諸悪瘡を治す。黄耆は肌を生じ諸瘡を治す。
当归・芍薬・川芎は補血作用がある。

梔子鼓湯

(目標) 心中懊惱(胸が塞がったように苦しい)し身体に熱感をおぼえるもの。

(応用) 肝炎・食道ポリープ・食道炎・口内炎・不眠・痔核

(方解) 山梔子は消炎・鎮痛・止血の効があり胸部に働く。

香鼓は熱を発散し健胃作用により消化吸収を助ける。

滋腎通耳湯

(目標) 耳鳴・難聴

(応用) 耳鳴・難聴

(方解) 四物湯で補血し、知母・黄柏・黄芩で清熱し、白芷・香附子で鎮痛する。

滋腎明目湯

(目標) 久病で衰弱し、気血衰えて視力障害のあるもの。

(応用) 視力障害・眼精疲労・弱視・白内障

(方解) 四物湯は補血し、白芷で鎮痛はする。山梔子・黄連・桔梗は清熱し、特に菊花・蔓荊子は目の炎症を去る。燈心草・細茶は覚醒利尿し、人参・甘草は栄養補給する。

七物降下湯 (目標) 虚証の高血圧
(応用) 高血圧・尿蛋白が出て腎硬化症のもの・腎炎による高血圧
(方解) 四物湯 加釣藤鈎・黄耆・黄柏
四物湯で血虚の状態を改善し、釣藤鈎・黄耆は降圧作用を有す。黄柏は充血を除く。

四物湯 (目標) 貧血症で皮膚乾燥し、脈沈弱のもの。婦人多くに用いる。
血液の不足・遍在・不調和を治す。
(応用) 月経異常・不妊症・産前産後の諸病・血の道症・皮膚病
(方解) 当帰・地黄は造血・滋潤し、芍薬・川芎は瘀血を去り血行をよくする。

炙甘草湯 <腹脈湯> (目標) 動悸・息切れ
気血が共に衰え、邪気が心下に急迫的に逆動し、心動悸や脈結滞を起こしたもの。
(応用) 肺炎等の熱性病で高熱で動悸・虚煩・不眠があり脈の結滞がある時・心臓弁膜症・心悸亢進症・不整脈・交感神経緊張症
高血圧症・バセド一病
(方解) 炙甘草は心肺の急迫症状を緩和し、大棗は心胸を潤し強心し呼吸促進を緩和する。麦門冬・麻子仁・地黄・阿膠は滋潤の剤で、乾燥を潤し栄養を高め煩熱を解す。
★原典には酒と水で煎じるとある。
阿膠は煎じて滓を濾したものに加えてよく溶かして服用する

赤石脂湯 (目標) 補中益気湯証で脱肛・子宮下垂のもの。
(応用) 脱肛・子宮下垂
(方解) 補中益気湯 加赤石脂

芍药甘草附子湯 (目標) 腰痛・下肢痛があり、冷えの強いもの。
(応用) 坐骨神経痛・下肢の神経痛
(方解) 芍药甘草湯 加大黄・細辛・附子
細辛・附子は冷えを去り痛みを除く。

芍药甘草湯 <去杖湯> (目標) 急迫性の激しい筋肉の攣急と疼痛
(応用) 四肢腹部腰背の筋攣急・胃脘攣・胆石疝痛・腎石疝痛・
下肢無力症・生理痛
(方解) 芍药は筋の拘攣を緩め、瘀血を散じ痛みを止め麻痺を除く。
甘草は急迫・攣急を緩解し気血を調和する。
芍药は中枢性の興奮を抑制し甘草は末梢性の興奮を抑制する。

★通常頓服薬として用いる。

芍薬甘草附子湯 (目標) 芍薬甘草湯証で、悪寒・痺れのあるもの。

(応用) 手足の冷えと痺れ

(方解) 芍薬甘草湯 加附子 附子は陰虚証の冷えを去る。

十全大補湯 (目標) 体力・気力ともに衰えたもの。

気血・陰陽・表裏・内外・みな虚したものを大いに補う。

虚証で全身衰弱甚だしく、胃腸の働き弱り、貧血し、皮膚は乾燥し熱状のないもの。

(応用) 諸貧血・産後や手術後の衰弱・諸熱性病後の衰弱・諸出血後
アトピー性皮膚炎・視力減退・子宮癌・乳癌・白血病

(方解) 四物湯 合四君子湯 (八珍湯) 加桂枝・黄耆
四物湯で補血し乾燥を潤す。四君子湯で気を補い脾胃消化器系の働きをよくする。桂枝・黄耆は作用を補強する。

十八味流気飲 (目標) 十六味流気飲に準ずる。

悪瘡・癰疽・たちの悪いできもの

(応用) 化膿性腫れ物・各種腫瘍・乳腺症・癌

(方解) 十六味流気飲 加党参・沙参

党参は強壯・健胃作用があり身体の衰弱に使用する。

沙参は滋潤作用があり発熱性疾患回復期の衰弱・脱水症状を回復する。

十味劉散料 (目標) 貧血し体力が衰弱し手足が冷えるものの肩痛・上腕痛

(応用) 四十肩・上肢の神経痛・坐骨神経痛

(方解) 四物湯で補血し、茯苓・白朮で健胃し、黄耆で気を補い桂皮防風・附子で冷えと痛みを去る。

十味敗毒湯 (目標) 化膿性疾患・皮膚疾患の初期・アレルギー体質改善薬として用いる。

(応用) 癰・せつ・湿疹・蕁麻疹・諸化膿症・乳腺炎・リンパ腺炎にきび・中耳炎・水虫・ものもらい

(方解) 荊防敗毒散料 去前胡・薄荷・連翹・枳殻・金銀花 加桜皮 (または土骨皮)

荊芥・土骨皮・防風・桔梗・柴胡・川芎・甘草は解毒作用がある。独活・防風・茯苓は風を逐い湿を去る。桔梗・川芎は排膿する。

十六味流気飲 (目標) 気鬱滞して腫塊を生じ、瘡瘍を生ずるもの。頑固な腫れ物
(応用) 乳腺症・甲状腺腫・頸部リンパ腺腫・頑固な皮膚病・乳癌
(方解) 潰れて膿血の出るものに用いる。

人參・黄耆・甘草は氣を補い、当歸・川芎・芍薬は血を補う。木香・檳榔子・枳殻・厚朴・紫蘇葉・烏薬・防風は氣滯を去る。桂枝・白芷は血滯を去る。

潤腸湯 (目標) 体液乾燥と腸内の燥熱によって腸管が乾いて潤いをなくし、常習性便秘となったもの。老人に多い。

(応用) 弛緩性常習性便秘

高血圧・動脈硬化・慢性腎炎を合併した便秘

(方解) 本方は滋潤粘滑性下剤で、当歸・地黄は血燥を潤し新血を生ずる。麻子仁・杏仁・桃仁は腸を潤し、大黄・黄芩は腸熱を冷ます。

小陷胸湯 (目標) 胸痛・季肋部の疼痛

熱と水飲が心胸部に痞塞し、心下部硬く圧痛があり、胸中の悶え・呼吸促迫・咳嗽時胸痛のあるもの。

(応用) 諸熱性病・気管支炎・肺炎・肋膜炎・膿胸・喘息・胃痛・胃酸過多症・胆石症・肋間神経痛

(方解) 黄連は血熱を冷まし、心下・胸中の痞えを開き、炎症・充血を治し、精神不安を治す。半夏は氣を開き水を逐い去痰鎮咳する。栝楼仁は熱をさまし、凝結した痰と水を逐い胸脇の痛みを去る。

生姜瀉心湯 (目標) 半夏瀉心湯の証で悪心・嘔吐・噯氣・食臭があり腹中雷鳴下痢するもの。

(応用) 胃腸炎・下痢・過酸症

(方解) 半夏瀉心湯中の乾姜を減じてひね生姜を加えたもの。
ひね生姜により制吐作用が増強される。

小建中湯 (目標) 虚弱で疲れやすいもの・脾胃虚弱・腹痛・腹直筋の拘攣
虚弱児の体質改善薬として用いる。

(応用) 小兒虚弱体質・夜尿症・夜泣き・小兒の感冒で腹痛を訴えるもの・ヘルニア・過労・疲労・慢性胃炎・胃潰瘍・胃下垂症
慢性腸炎・弛緩性便秘

(方解) 桂枝加芍薬湯 加膠飴

桂枝加芍薬湯は内部の虚を補う。主薬は芍薬・甘草・膠飴で裏虚を補い、芍薬と甘草で氣血を補い急迫を緩和し筋の拘攣を緩める。大棗・膠飴は滋養強壯し、桂枝は氣の上衝を下す。

★膠飴は餅米を蒸し麦芽で糖化させて作った飴で滋養強壯と緩和の効がある。

膠飴は煎じて滓を濾した後加えて溶かす。

小柴胡湯 (目標) 病が少陽の部位(半表半裏)に進み胸脇苦満を現す。
<三禁湯> 食欲不振・悪心・嘔吐・往来寒熱・口苦・舌白苔がある。
(応用) 諸急性熱性病・胸部疾患・気管支炎・喘息・肺炎・ヘルペス
肝炎・胆嚢炎・胆石症・黄疸・胃炎・胃潰瘍・扁桃炎
頸部リンパ腺炎・中耳炎・耳下腺炎・腎炎・円形脱毛症
(方解) 柴胡が主薬で、胸脇苦満を去り肝臓の機能を高める。
半夏・生姜は胃内停水を去り悪心・嘔吐を止める。人參は
甘草・大棗と胃の働きを助ける。

★合方の代表例

小柴胡湯 合小陷胸湯(柴陷湯)：肋膜炎

小柴胡湯 合五苓散(柴苓湯！配合比が違う)：腎盂炎・ネフローゼ

小柴胡湯 合四物湯(柴胡四物湯)：外感後血熱去らないもの・産褥熱

小柴胡湯 合半夏厚朴湯(柴朴湯)：気管支喘息・ノイローゼ

小柴胡湯 合黄連解毒湯：咽喉・口腔の化膿・びらん

小承気湯 (目標) 腹満して大便硬く秘結するもの。潮熱・譫語のもの。

(応用) 便秘症・肥胖症・高血圧・食中毒・急性肺炎

(方解) 大承気湯 去芒硝

大黄は瀉下・消炎・抗菌がある。厚朴・枳実は蠕動運動を促進し腹部膨満感を除く。

小青竜湯 (目標) くしゃみと水様性鼻水の出る感冒
心下に水毒と寒があり表に熱のあるもの。咳嗽・咯痰・喘息
浮腫を発したものの。

(応用) 感冒・気管支炎・気管支喘息・腎炎・結膜炎・涙嚢炎・浮腫
生唾過多症・アレルギー性鼻炎・くしゃみ頻発症

(方解) 麻黄・桂枝で表を解す。桂枝は上衝を抑え、麻黄は喘咳を治す。
温肺散寒の乾姜・細辛、去痰止咳の半夏、鎮咳消炎の五味子、止癆の芍薬および甘草からなる。

小青竜湯加石膏湯 (目標) 小青竜湯の症に煩燥が現れる場合に使用

(応用) 咳嗽・鼻水・くしゃみ

(方解) 小青竜湯 加石膏

小續命湯 (目標) 身体麻痺・言語障害・知覚障害があり、体力が衰え虚証のもの。

(応用) 関節炎・頸肩腕症候群・腰痛・関節リウマチ・顔面神経麻痺
半身不随・脳溢血

(方解) 利水の防己、祛風湿の防風、発汗・利尿の桂枝・麻黄、清熱
の黄芩、補気の党参・甘草、補血活血の芍薬・川芎、去寒の
附子・生姜、発散を強める杏仁からなる。

小半夏加茯苓湯 (目標) 胃内に停水があり嘔吐するもの。

利尿減少・口渴・心悸亢進・眩暈をとこなうもの。

(応用) 妊娠嘔吐・急性胃腸炎

(方解) 半夏・生姜は嘔吐を治す。茯苓・半夏は胃内停水を去り
利尿をよくする。

生姜はひね生姜を使用

消風散料 (目標) 頑固な湿疹で、分泌物が多く痂皮を形成し、地肌が赤みを帯
び痒みが強く口渴を訴えるもの。

(応用) 頑固な皮膚病・湿疹・蕁麻疹・水虫・あせも・皮膚搔痒症

(方解) 苦参・知母・石膏は血熱を冷まし、当帰・地黄は血燥を潤す
牛蒡子・蝉退・荊芥・防風は風を去り瘡を治す。木通は血脈
を利す。

升麻葛根湯 (目標) 麻疹(はしか)の初期

まだ発疹の出る前で、熱が出てきて普通の感冒と見分けのつ
かない時使用する。

(応用) 麻疹・風疹

(方解) 升麻・葛根は発汗・解熱・血管拡張作用があり発疹を十分に
出させ内攻による弊害を防ぐ。芍薬は消炎・抗菌作用があり
甘草は消炎・解毒作用がある。生姜は升麻・葛根を助ける。

生脈散料 (目標) 気陰両虚で全身の倦怠無力感や息切れ・慢性の咳嗽のあるも
の。

(応用) 日射病・出血・激しい嘔吐や下痢等脱水症状を伴うショック
慢性気管支炎・肺結核

(方解) 補気の人参、滋陰の麦門冬、生津止汗の五味子からなる。

逍遙散料 (目標) 虚弱体質のもので、手足の冷え・のぼせ・肩こり・疲労感
動悸・不眠・月経異常・神経不安のみられるもの。

(応用) 自律神経失調症・更年期障害・神経性胃炎・十二指腸潰瘍・
慢性肝炎・肝硬変・乳腺炎・月経不順・月経困難症

(方解) 四逆散 去枳実 加薄荷・茯苓で精神不安・いらいら・憂鬱感
を去り、当帰・芍薬が月経障害を調製する。

加味逍遙散料 去牡丹皮・山梔子

舒筋立安湯

- (目標) 四肢の関節が痛み虎の咬むが如きもの。
(応用) 慢性多発生関節リウマチに長期服用する。
(方解) 疎経活血湯 去当帰・生姜 加独活・木通・紅花・天南星・半夏・木瓜・黄芩・連翹・附子。
疎経活血湯は補血・去湿・利水・駆瘀血・去寒・清熱・和胃の薬味から構成される。
更に独活・木瓜は鎮痛・抗痙攣作用があり、木通は浮腫を去り、紅花は瘀血を去り、天南星・半夏は湿を去り鎮痙・鎮静し、黄芩・連翹は清熱し、附子は冷えを去り痛みを止める。

四苓湯

- (目標) 五苓散の証で悪風・微熱などの表証のないもの。
口渴があり、尿量減少・嘔吐・浮腫などがあるもの。
(応用) 急性胃腸炎・嘔吐・ネフローゼ
(方解) 五苓散料 去桂枝

辛夷散料

- (目標) 風寒による急性の鼻閉
(応用) 副鼻腔炎・鼻炎・アレルギー性鼻炎
(方解) 辛夷は鼻閉を開通し頭痛を去る。
防風・羌活・白芷・蒿本・細辛・升麻は発散を強め頭痛を緩解する。川芎は血行促進し、木通は利尿し鼻汁の分泌を抑制する。甘草は消炎作用がある。

辛夷清肺湯

- (目標) 肺熱による慢性副鼻腔炎や咳嗽にもちいる。
(応用) 鼻閉・慢性鼻炎・肥厚性鼻炎・蓄膿症・上顎洞化膿症
(方解) 鼻閉を去る辛夷と清熱の黄芩・山梔子・知母・石膏・升麻潤肺化痰の百合・麦門冬・枇杷葉からなる。

秦艽別甲湯

- (目標) 肺結核症で咳嗽・咯痰・高熱がなく激しい症状は現さないが微熱が続きなかなか全治しないもの。
(応用) 肺結核・肺炎後の後遺症
(方解) 秦艽・別甲は解熱薬で、虚勞骨蒸の熱を治す。柴胡は肝胆の熱を去る。地骨皮・青蒿・烏梅・知母は肺中の熱を冷ます。当帰は血を養い燥を潤す。

神効湯

- (目標) 疝氣(痛み)を治す。子宮・卵管・腸に癒着があつて便秘し、熱鬱滞し寒さにより腹満疼痛を發するもの。
(応用) 子宮内膜炎・便秘
(方解) 香附子・木香・烏薬・茴香・延胡索・益知・当帰・呉茱萸・

縮砂・生姜は温性薬で痛みを去る。蒼朮は利尿し、山梔子・
燈心草は心下の熱を去り利尿する。甘草は諸薬を調和する。

参蘇飲

- (目標) 胃腸虚弱者の感冒で咳嗽を兼ねるもの。嘔吐するもの。
葛根湯や桂枝湯で胸に痞える人に使用する。
(応用) 感冒・気管支炎・肺炎・神経症・拒食症
(方解) 補気健脾の六君子湯 去白朮と、表を発散する紫蘇葉・葛根・
前胡・生姜と、気をめぐらす木香・枳殻と、去痰止咳の桔梗
から構成される。

神秘湯

- (目標) 呼吸困難・咳嗽・喘鳴のあるもの。
痰少なく気鬱の神経症を兼ねた気管支喘息
(応用) 気管支喘息・肺気腫・小児喘息
(方解) 麻黄・杏仁は喘嗽を治し、陳皮は気をめぐらし、厚朴は氣逆
を降ろし、紫蘇葉は表を發し風寒を去る。
柴胡は表裏の熱を去り胸脇苦満を去る。甘草は諸薬を調和す
る。

真武湯

- (目標) 新陳代謝が衰え、水毒が胃腸に滞留して小便不利・腹痛・
水様性下痢・目眩・心悸亢進を現す。
身体の倦怠感が甚だしく、ふらふらして倒れそうになり、手
足が冷えやすいもの。
(応用) メニエール症候群・下痢・腎炎・胃腸虚弱症・蕁麻疹
(方解) 茯苓・白朮は胃内停水を去り、芍薬は裏虚を補い胃腸機能
を調整する。附子は温め補い、生姜とともに新陳代謝を盛ん
にし、元気を回復する。

参苓白朮散料

- (目標) 胃腸虚弱で水瀉性の下痢しやすく食欲のないもの。
(応用) 慢性胃腸炎・慢性下痢・消化不良
(方解) 四君子湯(去大棗・生姜)で脾胃を補い、山薬・
白扁豆・薏苡仁・蓮肉で消化機能を促進し、湿を除き
止瀉する。縮砂は気の停滞をめぐらし健胃に働く。
桔梗は諸薬を上行させる。

清湿化痰湯

- (目標) 水毒による全身・四肢の筋肉・関節・胸肺の痛み
背中が冷えて冷たいもの。
(応用) 肋間神経痛・胃アトニー症・筋肉リウマチ
(方解) 半夏・陳皮・茯苓は胃内停水を去り、蒼朮は利尿に働く、
天南星・白芥子は痙攣・麻痺を治し、白芷・羌活は鎮痛する
甘草・生姜は諸薬を調和する。

^{せいじょうけんつうとう}
清上蠲痛湯 (目標) 猛烈にして頑固な頭痛

(応用) 慢性頭痛・三叉神経痛・偏頭痛・月経時頭痛・脳腫瘍の頭痛

(方解) 止痛・発汗・解熱の羌活・独活・防風・川芎・白芷・菊花・
蔓荊子・細辛に、清熱の黄芩、補血の当帰、滋陰の麦門冬、
補脾の蒼朮・甘草・乾姜からなる。

^{せいじょうぼうふうとう}
清上防風湯 (目標) 上焦の実熱 顔面や頭部に血熱が鬱滯し、瘡を発し顔面赤く
上衝のあるもの。

(応用) 青年のにきび・頭部湿疹・眼充血・顔面充血・酒渣鼻

(方解) 黄連・黄芩・山梔子は熱を解し、連翹・桔梗・荊芥・薄荷は
解毒・清解・発散し、白芷・川芎は諸薬を上部に作用させる。

^{せいしよえつきとう}
清暑益気湯 (目標) 暑気あたりによる疲労倦怠・食欲不振・尿量減少・下痢

(応用) 夏やせ・夏負け・日射病

(方解) 補中益気湯 合生脈散 加黄柏 去大棗・柴胡・升麻・生姜
補中益気湯で補気健脾し生脈散で気陰両去を補い生津し、黄
柏で清熱する。

^{せいしんれんしん}
清心蓮子飲 (目標) 上盛下虚で上部の心熱が盛んになり下部の腎の働きが弱り、
泌尿器に尿意頻数・尿混濁・遺精・帯下・残尿感などの症状
が現れたもの。

(応用) 膀胱炎・腎盂炎・淋疾・帯下・糖尿病

(方解) 上焦の心・肺の火を冷まし脾胃・腎を補う。

麦門冬・蓮肉は心熱を冷まし心を補う。

車前子・地骨皮は心熱を冷まし小便を通じる。

人參・黄耆・地骨皮・黄芩・麦門冬は肺熱を冷まし補腎する。

人參・茯苓・甘草は脾胃を補う。

^{せいねつげいとう}
清熱解鬱湯 (目標) 心下・上腹部の疼痛が長引き鬱熱をきたしたもの。

(応用) 胃痛・むねやけ・慢性胃炎・胃潰瘍・十二指腸潰瘍・脾臓炎
胆石症・胆嚢炎

(方解) 蒼朮は利水し、枳殻・陳皮・香附子・生姜・乾姜は理気作用
によって消化吸收を促進する。山梔子・黄連は胃熱を去り、
川芎は鎮痙・鎮静に働く。甘草は諸薬を調和する。

^{せいねつほまとう}
清熱補気湯 (目標) 口舌びらんするもの。

慢性胃炎などで脾胃が虚し、胃の虚熱のために舌が爛れ舌乳
頭が消失して一皮剥いだようになり、口中不快のもの。

(応用) 口内炎・舌炎・舌亀裂症・舌知覚麻痺症

産後や悪性腫瘍の末期の口中症状
(方解) 脾胃の虚を補う四君子湯(人參・白朮・茯苓・甘草)と、血虚を補う当歸・芍薬。津液乾燥を潤す五味子・麦門冬・玄参と、升麻で構成される。升麻は喉口中の熱を冷まし諸薬を上
に引き上部に作用させる。

清熱補血湯 (目標) 血虚・血中燥熱により口舌に潰瘍・糜爛を生じたもの。
(応用) 口内潰瘍・口舌糜爛・ペーチエット病・口内炎
(方解) 四物湯が血虚を補い血燥を潤す。
五味子・麦門冬は津液を生じ乾燥を潤す。
玄参・知母・黄柏・柴胡・牡丹皮は熱を冷ます。

清肺湯 (目標) 慢性の気管支炎・肺炎で慢性の炎症を起こし咳嗽・喀痰のやまぬもの。痰は粘稠で切れにくく、体の衰弱しているもの。
(咳喘門) (応用) 慢性気管支炎・慢性咽喉炎・肺炎・気管支喘息
(方解) 天門冬・麦門冬・五味子は肺を潤し肺熱を冷まし痰を潤し喀痰する。貝母・杏仁・桑白皮・桔梗・茯苓・陳皮は去痰作用を強める。黄芩・山梔子は胸中の熱を冷まし、当歸は血を潤す。
★万病回春・便血門の清肺湯は痔出血に用いる。

折衝飲 (目標) 瘀血による下腹部疼痛
(応用) 月経痛・骨盤腹膜炎・子宮内膜炎・卵管炎・子宮筋腫
(方解) 桂枝茯苓丸料 合四物湯 去茯苓に延胡索・牛膝・紅花を加えて疼痛を鎮める。

洗肝明目湯 (目標) 実熱の眼疾で炎症・充血・疼痛など刺激症状のある角膜・結膜疾患に使用する。
(応用) 角膜炎・虹彩炎・緑内障
(方解) 温清飲 去黄柏 加石膏・連翹・防風・荊芥・薄荷・菊花・羌活・蔓荊子・決明子・桔梗・蒺藜子・甘草で構成され、清熱し風熱症状を去る。特に菊花・蔓荊子・決明子・蒺藜子は眼疾患の炎症に使用する。

川芎茶調散料 (目標) 頭痛 悪寒・発熱・鼻づまりを伴う。
(応用) 頭痛 頭痛を呈する感冒や鼻炎
(方解) 頭痛を止める川芎が主薬で、辛温解表の荊芥・白芷・防風・細辛・薄荷と、覚醒利尿の細茶と、諸薬を調和する甘草より構成される。

千金内托散料 (目標) 化膿症で体質虚弱のために病毒を発散できないものに体力をつけて排膿機能を促進する。

托裏消毒飲証のさらに虚したもの。

(応用) 癰疽・痔瘻・カリエス・多発性筋炎

(方解) 黄耆・人参・桂枝・川芎・防風は皮膚に活力をつける。
当帰は補血し、厚朴は停滞する気・水をめぐらし白芷は排膿する。

喘四君子湯 (目標) 気虚で胃腸虚弱者の呼吸困難・喘鳴・咳嗽・痰に使用する。

(応用) 気管支喘息・心臓性喘息・慢性気管支炎

(方解) 補気の子湯(去大棗・生姜)と、鎮咳の紫蘇子・沈香・桑白皮と、理気(気をめぐらす)の陳皮・厚朴・縮砂・木香より構成される。

銭氏白朮散料 (目標) 胃腸虚弱の小児が吐瀉して津液渴き、発熱口渴するもの。

(応用) 小児消化不良・吐瀉を兼ねる感冒・糖尿病で何を食べても甘く感じるもの。

(方解) 四君子湯(去大棗・生姜)加葛根・藿香・木香
藿香は制吐・止瀉作用がある。

旋覆花代赭石湯 (目標) 生姜瀉心湯証より虚している。心下痞硬・呑酸・嘔吐・噎気等で生姜瀉心湯では効かないものに用いる。

便秘しているが大黄を用いると腹痛や裏急後重をおこしてしまうため使用できないもの。下痢しているもの。

(応用) 胃酸過多症・留飲証・胃拡張症・胃下垂・胃潰瘍
幽門狭窄・小児嘔吐・胃癌

(方解) 生姜瀉心湯 去乾姜・黄連・黄芩 加旋覆花・代赭石
旋覆花は胃を開き吐逆を止め堅痞を消し噎気を治す。
代赭石は補血・止血・収斂し、人参は強壯・健胃し、
半夏は鎮吐・利尿・去痰し、生姜は健胃・鎮吐する。

増損木防已湯 (目標) 胸部に痰飲があり支え呼吸困難・咳嗽の強いもの。

顔面がどす黒くチアノーゼを起こしているもの。

(応用) うっ血性心不全・肺水腫・心臓性喘息・胸水

(方解) 木防已湯(石膏・桂皮・防已・人参)に紫蘇子・桑白皮・
生姜が加わり鎮咳・去痰・利尿作用が増強されている。

疎肝湯 (目標) 瘀血による左肋下の痛み 左腹直筋の緊張

(応用) 左脇腹痛・肋間神経痛・脾臓炎

(方解) 四物湯 去地黄で補血し、桃仁・紅花で瘀血を去り血行促進し

柴胡・青皮・枳殻で胸脇部の張痛を除き、黄連で清熱し、呉茱萸で痛みを去る。

続命湯

- (目標) 脳溢血や脳軟化症による半身不随や言語障害のあるものの初期にもちいる。大青竜湯証に似て血虚の証があり、裏熱があつて血液が乾燥するもの。
頭痛・喘鳴・身体痛・麻痺・身体拘急・口渴があるもの。
(応用) 脳溢血・脳軟化症・高血圧・神経痛・顔面神経痛・関節炎・偏頭痛でよだれのでるもの・喘息・気管支炎・腎炎
(方解) 大青竜湯中の生姜を乾姜に変え、浮腫・喘鳴・身体痛を去るさらに、去大棗・加当归・人参・川芎で強壯・補血・滋潤の効が加わっている。

鍊経活血湯

- (目標) 筋肉・関節・神経に疼痛を發するもの。特に腰以下の痛みに用いる。筋絡中の滯血をめぐらし風湿を去る。
(応用) 筋肉リウマチ・痛風・漿液性膝関節炎・腰痛・坐骨神経痛・下肢麻痺
(方解) 四物湯で滯血をめぐらし、茯苓・蒼朮・陳皮・羌活・白芷・威靈仙・防已・龍胆・牛膝は腰脚の風湿を去る。

蘇子降気湯

- (目標) 足冷えと呼吸困難
下焦に力なく、上焦に痰飲がふさがっているもの。
(応用) 気管支炎・喘息・肺気腫
(方解) 紫蘇子・前胡・厚朴・陳皮・半夏は上逆の気を降ろし痰を除く。桂枝は上衝を治す。

<夕行>

大黃甘草湯

- (目標) 便秘し、食べ物を吐くもの。
(応用) 便秘
(方解) 大黃は瀉下作用がある。甘草は鎮痙作用があり大黃による大腸痙攣性腹痛を抑制する。
水200mlを15～20分で100mlに煎じる。
★大甘丸 として丸剤が頻用される。

大黃附子湯

- (目標) 腹が絞られるように激しく痛み、熱感と悪寒のあるもの。
(応用) 胃痙攣・腸痙攣・胆石発作・腎臓結石・腸閉塞
(方解) 附子は内寒を去り、細辛は外寒を去る。大黃は瀉下作用があり消化器内の停滞物を排出する。

大黃牡丹皮湯

- (目標) 実証で便秘し、下腹部の諸炎症や腫瘤に用いる。

(応用) 虫垂炎・痔核・肛門周囲炎・腸炎・卵巣炎
(方解) 大黃・芒硝の瀉下により下半身の諸炎症を除く。
牡丹皮・桃仁・冬瓜子は瘀血を去り排膿する。

大建中湯 (目標) 腹部が軟弱無力で弛緩し、寒冷を訴え、腸内に水とガスが停滞しやすく、腸の蠕動運動を望見でき、腹痛が激しいもの。
(応用) 腸管蠕動運動不穩症・腸捻転・腸狭窄症・回虫による腹痛
胃下垂・胃アトニー
(方解) 蜀椒・乾姜は裏寒を温め弛緩した組織に活力を与える。
膠飴は急迫症状を緩和し疼痛を治し滋養する。人參は胃腸の
消化吸收を促し体力を回復する。
膠飴は煎じて滓を濾したものに加えてよく溶かす。

小柴胡湯 (目標) 胸脇苦満と悪心・嘔吐・便秘があり、小柴胡湯証よりも実証
のものに使用する。
(応用) 慢性肝炎・胆石症・肩こり・高血圧・喘息・諸熱性伝染病
肥満・糖尿病・常習便秘
(方解) 小柴胡湯 去人參・甘草 加枳実・芍薬・大黃
柴胡・黄芩は胸脇苦満・熱を解し、枳実は氣を開き芍薬と
ともに筋緊張を緩め、大黃は熱を去り瀉下する。

大承氣湯 (目標) 腹部が充実膨満し便秘するもの。
潮熱状(全身が熱くなりじっとり汗ばむ)をあらわす。
(応用) 常習便秘・腹満・高血圧・腸チフス・痔疾・月経閉止
精神病
(方解) 大黃・芒硝は瀉下し実熱を冷まし胃腸の氣をめぐらす。
枳実・厚朴は氣が滞り腹部の膨満するのを治す。

大青竜湯 (目標) 表が実し煩燥の状を表し、悪寒・発熱・無汗・身体痛・口渴
するもの。裏に熱と水があるもの。
発汗により邪熱を發散する。
(応用) 感冒・肺炎・結膜炎など目の急性炎症・頭痛・脳膜炎
関節炎・ネフローゼ・腎炎の浮腫・蕁麻疹で充血や搔痒の激
しいもの。
(方解) 麻黄湯 加石膏・生姜・大棗
麻黄と石膏で煩燥を静め、麻黄・桂枝・杏仁で表熱を發散し
裏水を去る。

大防風湯 (目標) 下肢の運動麻痺と疼痛
慢性化し虚状で貧血気味のもの。筋肉が瘦せて下肢が細くな

ったもの。

(応用) 慢性関節リウマチ・脊髄炎・半身不随・脚気

(方解) 四物湯で補血強壯し、人参・白朮・黄耆で血行促進し冷えを去る。防風・羌活は骨関節の麻痺を治し、牛膝・杜仲は腰・脚の筋骨を強壯にし、疼痛を緩解する。

沢瀉湯

(目標) 胃内停水があり頭冒感・眩暈のするもの。

(応用) 胃下垂症・メニエール症候群・眩暈

(方解) 沢瀉・蒼朮の二味からなり、水毒を去り頭冒感・眩暈を去る。

托裏消毒飲

(目標) 化膿性疾患の解毒 初期および急性期に使用する。

(正宗) (応用) 癰疽・化膿性リンパ腺炎・多発性筋炎・カリエス・耳漏

(方解) 四物湯 去地黄で補血し、四君子湯で補気し、金銀花は癰疽を治し化膿を消散する。桔梗・白芷・皂角刺は排膿・消毒し、黄耆は皮膚筋肉を強壯し肉芽発生を助ける。

托裏消毒飲

(目標) 外科正宗の托裏消毒飲に比べ体力があり痒みの強い場合に使用する。

(回春) (応用) 化膿症疾患

(方解) 当帰・川芎は補血し、黄耆は補気し皮膚を強壯にする。

金銀花・桔梗・白芷・皂角刺・穿山甲・防風・栝楼根は排膿促進し、厚朴・陳皮は消化促進する。

断痢湯

(目標) 心下に水飲があつて下痢の止まないもの。

(応用) 慢性下痢・慢性腸炎

(方解) 半夏瀉心湯 去黄芩 加茯苓・附子

竹節温胆湯

(目標) 発熱が長引き、咳嗽・痰が多く煩燥して不眠症となったもの。

(応用) 咳嗽・不眠症・痰・驚悸・心悸亢進症・気管支炎・健忘症

(方解) 温胆湯 加柴胡・麦門冬・香附子・桔梗・黄連・人参

温胆湯(二陳湯加竹節・枳実)に清熱の柴胡・黄連と、理氣の香附子、去痰の桔梗、滋潤し咳嗽を止める麦門冬、補気の人参を加えたもの。

竹葉石膏湯

(目標) 大熱が去った後余熱が残り、熱が内部にひそんで津液枯燥となったもの。胸中煩悶し呼吸促迫・口渴するもの。

(応用) 肺炎・気管支炎・気管支喘息・百日咳・糖尿病で疲労口渴のあるもの。

(方解) 麦門冬湯中の大棗を去って竹葉・石膏を加えたもの。

竹葉・石膏で熱を冷まし煩燥を静め乾きを潤す。

半夏は嘔吐を止め麦門冬は胸部を潤し咳嗽を止め人参・甘草
粳米は虚勞を補い枯燥を潤す。

治肩背拘急方

(目標) 氣鬱による頑固な肩こり

(応用) 肩こり・むち打ち症・神経性肩こり

(方解) 香附子・烏薬・青皮・莪朮は鬱滞した気をめぐらし痛みを
去り凝りをほぐす。茯苓は利尿し、甘草は諸薬を調和する。

治頭瘡一方

(目標) 小児の頭瘡で分泌物・搔痒・痂皮を認めるもの。

<大芎黄湯> ★大人にも使用

(応用) 小児頭部湿疹・顔面湿疹・化膿性腫物・アトピー性皮膚炎

(方解) 連翹・忍冬は諸悪瘡を治し、防風は風湿を去る。荊芥は瘡
を治し紅花・川芎は瘀血を去る。蒼朮は湿を燥す。

治打撲一方

(目標) 打撲による腫張疼痛

(応用) 打撲・捻挫

(方解) 川骨・土骨皮・川芎・大黄は瘀血を去り鎮痛・消炎する。

桂皮・丁字は血行促進し、諸薬の効果を高める。

甘草は諸薬を調和する。

知柏地黄丸料

(目標) ほてり・のぼせ・口渴などの熱症状が顕著な、慢性消耗性
疾患

(応用) 糖尿病・高血圧症・慢性腎炎・自律神経失調症

(方解) 六味丸料 加知母・黄柏

六味丸は腎虚を補う、知母・黄柏は清熱作用があり、神経
の興奮を低下させる。

中建中湯

(目標) 腹痛・冷えがあり腹直筋の攣急するもの。

小建中湯と大建中湯の中間証

(応用) 術後の腸閉塞・腸狭窄症・腹痛・下痢・便秘

(方解) 小建中湯 合大建中湯(生姜→乾姜)去膠飴

調胃承氣湯

(目標) 比較的体力の衰えたものの頑固な便秘

大・小承氣湯に比べ作用が穏やか

(応用) 便秘・しゃっくり・歯痛

(方解) 大黄・芒硝・甘草から構成される。

大黄・芒硝は共に瀉下効果がある。

★歯痛に使用する場合は黄連を加える。

調中益氣湯 (目標) 補中益氣湯証で湿証を伴うもの。
脾胃氣虚で筋緊張が低下し、身体が重い・泥状水状便・腹が
はる・口がねばる等の症状が顕著なもの。
(応用) 胃腸炎・胃アトニー・脱肛・ヘルニア
(方解) 補中益氣湯 加茯苓・芍薬

釣藤散料 (目標) 頑固な頭痛・頭重で眩暈を伴うもの。
上衝があつて怒りやすいものに使用する。
(応用) 頭痛・高血圧症・更年期障害・動脈硬化神経症
メニエール症候群
(方解) 釣藤は肝気を平らかにし神経の異常興奮や沈滞を調節する。
人参・茯苓は気を補い陳皮・半夏・生姜は去痰・制吐し消化
管の水分停滞をのぞき、麦門冬は滋陰し燥性を和らげる。
防風・菊花は上部の滞気をめぐらし清熱する。
石膏は鬱熱をさます。

腸癰湯 (目標) 虫垂炎に用いる。
腹痛・圧痛・抵抗があり便秘のないものに用いる。
(応用) 虫垂炎・痔疾・骨盤内炎症
(方解) 大黃牡丹皮湯 去大黃・芒硝 加薏苡仁
桃仁・牡丹皮で瘀血を去り冬瓜子・薏苡仁で排膿・消炎する。

猪苓湯 (目標) 小便不利・排尿痛・小便難・心煩・口渴・下焦の熱
(応用) 膀胱炎・尿道炎・尿意頻数・排尿痛・腎炎・膀胱結石・血尿
(方解) 猪苓・沢瀉・滑石は利尿し尿路の炎症を去る。阿膠は血熱を
冷まし止血作用がある。
阿膠は煎じて滓を漉したものに加えて溶かす。

通導散料 (目標) 打撲による内出血・下腹の瘀血症状
★桃核承氣湯に準ず
(応用) 打撲・月経不順・子宮内膜炎・痔・更年期障害・便秘
(方解) 駆瘀血剤の当歸・紅花・蘇木と理氣の枳実・厚朴・陳皮に瀉
下の大黃・芒硝を加え、利水の木通を加え、甘草で調和する。

抵当湯 (目標) 瘀血を去る。熱が下焦に結ばれた陳旧瘀血を去る。
(応用) 月経閉止・月経不順・子宮筋腫・卵巣囊腫
(方解) 水蛭・虻虫・桃仁は駆瘀血剤で消炎鎮痛する。大黃は下腹部
の瘀血や老廢物を通利し消炎する。

桃花湯

- (目標) 下痢・大腸炎で衰弱し、手足冷え下痢し膿血を下すもの。
(応用) 下痢・大腸炎・直腸潰瘍・痔瘻・肛門周囲炎
(方解) 赤石脂は収斂し下痢を止め止血する。乾姜は冷えを去り、粳米は赤石脂の作用を緩和する。

桃核承気湯

- (目標) 瘀血
下腹部に腫塊を触れ(少腹急結) 上逆が甚だしく 神経症状を表すもの。
(応用) 頭痛・冷え・のぼせ・月経痛・更年期症候群・月経不順
高血圧症・肩こり
(方解) 調胃承気湯 加桂枝・桃仁
桃仁は下腹部の瘀血を去り、桂枝は上衝を下げ、大黄・芒硝は瀉下し実熱を去る。

当帰湯

- (目標) 気血両虚で冷えると 増強する腹痛
(応用) 胃炎・十二指腸潰瘍・月経痛
(方解) 当帰・芍薬は補血し人參・黄耆・甘草は補気し、乾姜・蜀椒は冷えを去り止痛する。半夏・厚朴は膨満感を除き健胃する

当帰飲子

- (目標) 血虚し皮膚の乾燥による 慢性皮膚搔痒症
(応用) 老人性皮膚搔痒症・乾燥性皮膚疾患・慢性湿疹
(方解) 四物湯で血虚を治し、蒺藜子は諸瘡の搔痒を治す。
荊芥・防風は風熱を去り瘡を治す。黄耆は肌表の栄養を高め何首烏は滋養強壯する。

当帰建中湯

- (目標) 虚弱し冷え性で、血虚・貧血の甚だしいものの 腹痛
(応用) 婦人の腹痛・子宮出血・月経痛・産後の衰弱・下腹より腰背に及ぶ疼痛・坐骨神経痛・腰痛・腎石症・痔核脱肛・虫垂炎
(方解) 小建中湯 去膠飴 加当帰
当帰は増血・滋養・強壯・鎮痛の効がある。

当帰四逆湯

- (目標) 虚証で冷え症のものが、冷えのため気血のめぐりが悪くなり、手足が冷えて、腹痛・下痢・腰痛・頭痛・月経不順などの症状があらわれたもの。
(応用) 凍傷・坐骨神経痛・冷え腹・腹痛・腰痛・腰冷え・子宮脱
(方解) 当帰は補血順血し桂枝と血行促進する。細辛は寒冷を温め木通は気血の停滞を通達し、大棗は血行をよくする。

当帰四逆加
呉茱萸生姜湯

- (目標) 当帰四逆湯証で冷えて 胸満・嘔吐・頭痛・腹痛を訴えるもの。

(応用) 冷え性・頭痛・凍傷・レイノー病・神経痛・腰痛・ヘルニア・骨盤腹膜炎・下腹部腰脚の痛み

(方解) 当帰四逆湯 加呉茱萸・生姜
呉茱萸は寒冷を温め痛みを去り気の上衝を下し嘔気頭痛を止める。生姜も温め嘔を止む。

当帰芍薬散料 (目標) 虚証で瘀血と水毒のあるもの。貧血して冷えがあり、腹痛疲労倦怠疲労感・月経不順・月経困難もあるもの。

★応用範囲が広い

(応用) 冷え性・貧血・目眩・自律神経失調症・更年期症候群
月経不順・月経痛・浮腫・慢性腎炎

(方解) 当帰・芍薬・川芎は補血し、蒼朮・沢瀉・茯苓は水を去り利尿する。

★当帰芍薬散 加釣藤・黄耆は頭痛や高血圧に使用し、温清飲 加釣藤・黄耆の証より虚したものに使用する。

当帰拈痛湯 (目標) 湿熱による関節の発赤・腫痛を治す。
下肢の皮膚病で膿汁の出るもの。

(応用) 四肢関節赤腫熱痛・身体赤腫熱痛・痛風・関節リウマチ
下肢の皮膚病・脚気・疥癬

(方解) 蒼朮・白朮・猪苓・沢瀉・茵陳蒿は利尿し、知母・黄芩・苦参は清熱する。葛根・升麻・防風・羌活は解熱発汗し痛みを去る。当帰は血行促進し、人參・甘草は栄養補給する。

導水茯苓湯 (目標) 難治性の全身の浮腫

(応用) ネフローゼ・心臓性喘息の浮腫・腹水

(方解) 茯苓・沢瀉・白朮・桑白皮は利尿剤で体内の余分な水分を除く。縮砂・木香・紫蘇葉は消化不良を治す。燈心草は清熱し煩燥を去る。陳皮・大腹皮・木香・檳榔子は気滞を去り、木瓜は湿による下肢の筋無力を治す。

騰竜湯

(目標) 下腹部や陰部の炎症・化膿・腫脹疼痛

(応用) 肛門周囲炎・辜丸炎・虫垂炎・前立腺炎・鼠蹊リンパ腺炎
骨盤腹膜炎・子宮癌・子宮内膜炎

(方解) 牡丹皮・桃仁・冬瓜子は消炎性駆瘀血剤で、薏苡仁は化膿防止し、甘草は急迫を緩め、蒼朮は胃気を補う。

大黄牡丹皮湯 加薏苡仁・蒼朮・甘草

独活寄生湯

(目標) 気血両虚で虚弱なものの関節の痛みや痺れ

(応用) 腰痛・慢性関節炎・肩関節周囲炎・坐骨神経痛・リウマチ

(方解) 補血・補気の八珍湯 去白朮に、筋骨を強くする杜仲・牛膝 桑寄生に、去風湿・止痛の独活・防風・秦艽・細辛および 散寒の桂皮からなる。

<ナ行>
二朮湯

(目標) 水毒・肥満者の腕肩の痛み

(応用) 五十肩・四十肩・四十腕・肩関節周囲炎

(方解) 蒼朮・白朮・茯苓は利水し、羌活・威靈仙は湿を去り痛みを止める。天南星・半夏・陳皮は去痰し湿を去る。香附子は気滞による疼痛を去る。黄芩は清熱・利尿し、生姜・甘草は健胃・吸収を助ける。

二陳湯

(目標) 胃内停水による嘔吐・悪心 痰飲による諸病

(応用) 嘔吐・悪心・眩暈・頭痛・気鬱・二日酔い

(方解) 小半夏加茯苓湯 加陳皮・甘草

半夏は湿を燥し痰を利す。茯苓は水を行らし痰を消す。

陳皮は気を順らし、甘草は脾胃を補う。

★陳皮と半夏は陳久なるを尊ぶので二陳湯という。

女神散料

(目標) のぼせとめまい・血の道症

(応用) 更年期障害・血の道症・産前産後の神経症

(方解) 当帰・川芎は補血・順血し桂枝は上衝を去る。木香は鬱を散じ丁香・香附子・檳榔子は気をめぐらす。白朮・甘草・人參で補気健脾し黄連・黄芩で清熱する。

人參湯

(目標) 胃腸機能が衰弱し、冷えて腹痛するもの。

<理中湯>

(応用) 胃腸炎・胃弱・胃下垂・胃潰瘍・悪阻・下痢・唾液分泌過多

(方解) 人參が裏を補い水を調節し補気健脾する。乾姜は胃腸を温め白朮は胃内停水を去り甘草は人參を助ける。

人參養榮湯

(目標) 気血ともに虚し、四肢が冷え、顔色が悪く皮膚が乾燥し、息切れ・咳嗽・心悸亢進・不眠症・健忘症のあるもの。

(応用) 病後や産後の衰弱・肺結核・気管支炎・不眠症

(方解) 十全大補湯 去川芎 加五味子・遠志・陳皮

五味子は収斂・鎮咳去痰し、遠志は精神安定・滋潤し、陳皮は消化吸収促進する。

<ハ行>
排膿散

(目標) 疼痛を伴う化膿症の腫れ物

患部が堅硬で湿潤が強く排膿しないもの。

(応用) せつ・癰・面疔・扁桃膿瘍・蓄膿症・歯槽膿漏・麦粒腫・痔瘻・乳腺炎

(方解) 枳実は患部の硬堅を柔らかげ炎症湿潤を治す。芍薬は枳実を助け瘀血を去り筋拘攣を解く。桔梗は排膿し、卵黄は排膿促進する。

★粉末3gに卵黄を加え白湯で服用

排膿散及湯 (目標) 化膿症の腫れ物

(応用) せつ・癰・膿瘍・中耳炎・化膿症疾患

(方解) 排膿散 合排膿湯

排膿湯

(目標) 化膿症の初期または緩症で、虚証・熱性・開放性のもの。

(応用) せつ・癰・膿瘍・漏孔・中耳炎・歯槽膿漏・痔瘻・扁桃炎・肺膿瘍

(方解) 桔梗は化膿防止・排膿し、甘草は急迫を緩め、大棗は甘草を助け胃を調和し滋潤する。

★日本では排膿散及湯として散と湯の合方が用いられる。

伯州散

(目標) 慢性の化膿性疾患

(応用) せつ・癰・面皰・リンパ腺炎・乳腺炎・痔瘻

(方解) 反鼻霜は興奮・強壯・発表・鎮痛・排膿・肉芽発生促進する。津蟹霜は瘀血を去り、鹿角霜は清熱し血行促進する。

★反鼻・津蟹・鹿角は各々霜(黒焼き)にしたものを使用する。

★外用剤としても使用し、切瘡に散布して止血・化膿防止する。

白頭翁湯

(目標) 下痢して口渇のひどいもの。肛門に灼熱感がありしぶり腹(裏急後重)をとこなうもの。

(応用) 下痢・大腸炎

(方解) 白頭翁・黄連・黄柏・秦皮は清熱作用があり下痢を止める。

白頭翁湯

(目標) 熱性下痢・便膿血・しぶり腹。

加甘草阿膠湯 (応用) 下痢・大腸炎

(方解) 白頭翁湯 加甘草・阿膠

生甘草は清熱し、阿膠は止血する。

阿膠は煎じて滓を濾したものに加えて使用する。

麦門冬飲子

(目標) 口渇・多尿・皮膚乾燥・痩せ・脱力感があり夜床中で咳嗽するもの。

(応用) 糖尿病・老人や虚弱者の気管支炎・肺結核

(方解) 麦門冬は滋潤し、五味子・甘草と鎮咳・去痰する。茯苓は水

分調節を行う。栝楼根は清熱し咳嗽を止める。地黄は補血し人參と滋潤・栄養する。知母・竹葉は清熱し、葛根は解表し口渴を止める。

麦門冬湯

- (目標) 気の上逆による急迫性咳嗽・咽喉の違和感
咳込むと顔面紅潮し連発性で、痰は少なく切れにくいもの。
(応用) 気管支炎・気管支喘息・肺炎・咽頭炎・百日咳・嘔声
(方解) 麦門冬は滋潤・栄養し鎮咳・去痰する。半夏は化痰し悪心・嘔吐を静める。人參・粳米・大棗・甘草はともに麦門冬を助け滋潤・栄養する。

八味地黄丸料

<腎気丸>

- (目標) 腎(泌尿器・生殖器)が衰え、疲労倦怠感が強く、
尿路不調・腰から下の脱力感・麻痺・上衝・口渴・煩熱・
手足の冷えなどが現れるもの。
(応用) 腎臓疾患・膀胱疾患・糖尿病・腰痛・腰足の麻痺・白内障
前立腺肥大・白内障・耳鳴り・難聴・脱力感・遺精・陰萎
(方解) 地黄は血熱を冷まし血燥を潤す。牡丹皮は血滯を去り、
桂枝は上衝を去る。茯苓・沢瀉は利尿し、山茱萸は下焦を
引き締める。山薬は精気を滋し、附子は温め陽虚を治す。

八味帶下方

- (目標) 帶下 貧血気味で腹部軟弱なもの。
(応用) 帶下・トリコモナス
(方解) 山帰来・金銀花は解毒し瘡毒を治し清熱する。
当帰・川芎は補血し瘡瘍を治し、茯苓・木通・陳皮は湿熱を
除き水毒を去る。

八物降下湯

- (目標) 虚証の高血圧
(応用) 高血圧
(方解) 七物降下湯 加杜仲
杜仲は降圧・鎮静作用がある。

八珍湯

- (目標) 気血ともに虚し、疲労倦怠感・食欲不振・顔色が悪いなどの
症状のあるもの。
(応用) 貧血症・慢性肝炎・慢性腎炎・病後や産後の衰弱
(方解) 四物湯 合四君子湯
四物湯で血虚を補い、四君子湯で気虚を補う

半夏厚朴湯

<四七湯>

<大七気湯>

- (目標) 虚弱体質で、気分が鬱で神経質なものに現れる。
咽喉の閉塞感(咽中炙燔)・胃内停水・神経症状がみられ
る。

(応用) 神経性胃炎・胃下垂・神経性食道狭窄症・嘔吐・扁桃炎
嗄声・気管支喘息・不眠症・咽喉異物感

神経衰弱・ヒステリー・鬱病

(方解) 半夏・茯苓は胃内停水を去り、半夏・厚朴・蘇葉は気を開く。半夏・紫蘇葉は去痰鎮咳作用がある。

★鎮咳で使用するときには紫蘇葉→紫蘇子

はんげしやしんとう

半夏瀉心湯 (目標) 心下部の痞塞感・悪心・嘔吐・食欲不振があり胃内停水・腹中雷鳴・下痢を伴うもの。

(応用) 胃腸炎・胃酸過多・胃下垂・胃潰瘍・神経性胃炎・下痢
二日酔い・口内炎

(方解) 黄連・黄芩が心下の実熱を冷まし、半夏・乾姜が気をめぐらし胃内停水を去り嘔吐を治す。人參・甘草・大棗は諸薬を調和する。

はんげびやくしつてんまつとう

半夏白朮天麻湯 (目標) 水毒による頭痛・眩暈・嘔吐で、手足の冷えるもの。
胃腸虚弱者で胃内停水のあるものにみられる。

(応用) 眩暈・頭痛・メニエール病・低血圧・胃下垂症

(方解) 六君子湯が基本となり補気健脾する。麦芽・神麴は消化促進し、黄柏・沢瀉は清熱し利水する。天麻はめまいを治す。

ひゃくごうこきんとう

百合固金湯 (目標) 慢性の乾咳
咽喉痛・口や咽の乾燥感があり掌や足の裏がほてるもの。

(応用) 気管支炎・肺結核・咽喉炎

(方解) 麦門冬・百合は滋潤・栄養し鎮咳する。貝母・桔梗・甘草は去痰し、玄参は清熱する。当帰・芍薬・地黄は補血し滋潤・栄養する。

ひゃくことう

白虎湯 (目標) 発熱し汗が出て、口渴・煩躁するもの。

(応用) 日射病・発熱性伝染病・喘息・皮膚病・精神病

(方解) 石膏・知母は清熱・鎮静し、粳米・甘草は補養し石膏による裏の冷えすぎと高熱による消耗を補う。

ひゃくかけいしとう

白虎加桂枝湯 (目標) 白虎湯証で表証が強く上衝のあるもの。

(応用) 熱性病で高熱のもの・筋炎・関節炎・湿疹・乾癬・
陰部搔痒症

(方解) 白虎湯 加桂枝
桂枝は上衝を去る。

白虎加人參湯 (目標) 内外の熱甚だしく津液消耗し、口渇し口舌の乾燥甚だしく
大いに水を飲みたがるもの。

(応用) 日射病・発熱性伝染病・糖尿病・皮膚炎・乾癬・腎炎

(方解) 白虎湯 加人參

人參は裏を補い栄養・滋潤する。

茯苓飲 (目標) 脾胃が虚して胃内停水があり、胃部停滞膨満感があるもの。
食欲不振・悪心・嘔吐・噎気・振水音・胃部疼痛を伴う。

(応用) 胃アトニー・留飲症・胃下垂症・胃液分泌過多症

(方解) 茯苓は胃内停水を去り人參・白朮・陳皮・生姜は胃機能を
高め、枳実は心下の気の痞えを開く。

茯苓甘草湯 (目標) 熱があるのに手足が冷え動悸するもの。
汗が出て利尿減少するが口渇のないもの。

(応用) 心悸亢進・不安神経症・心臓弁膜症

(方解) 茯苓は胃内停水を去り、鎮静作用により動悸をおさえる。
桂皮・生姜は血行促進し発汗・利尿する。

甘草は補益し調製する。

茯苓杏仁甘草湯 (目標) 胸痛・背痛があり、胸が塞がったように苦しく
心悸亢進・呼吸促迫・喘咳のあるもの。

(応用) 気管支喘息・肺気腫・肋膜炎・心臓性喘息・狭心症・
心筋梗塞

(方解) 茯苓は水毒を去り動悸を抑える。杏仁は乾咳・燥痰を
潤して鎮咳する。甘草は急迫症状を去り痛みを止める。

茯苓四逆湯 (目標) 全身の機能が衰弱したもの。四逆湯証で煩燥の激しいもの。

(応用) 瘧の末期治療

(方解) 茯苓は水毒をさり消化吸収を助ける。人參・甘草は補気し
栄養する。乾姜・附子は冷えを去り衰弱した機能を賦活する。

茯苓沢瀉湯 (目標) 胃部に停滞感や悪心があり、食後に食べ物を嘔吐して口渇し
て水を飲みたがるもの。

頭痛・眩暈・心悸亢進・利尿減少がみられる。

(応用) 胃アトニー・胃下垂症・胃拡張・胃潰瘍・胃癌

(方解) 苓桂朮甘湯 加沢瀉・甘草

茯苓・沢瀉は水飲をめぐらし、朮・甘草は脾を補い、生姜は
吐逆を治し、桂枝は上衝を去る。

附子湯

(目標) 表裏共に寒と水があつて、背悪寒・身疼痛・手足の冷えがあるもの。

(応用) 神経痛・リウマチ・関節炎・湿疹・蕁麻疹・下腹冷痛

(方解) 真武湯 去生姜 加人参

附子は悪寒・疼痛を治し、茯苓・白朮は停水をめぐらす。芍薬は裏虚を補い疼痛を治す。人参は裏を補い水分不均衡を調整する。

附子粳米湯

(目標) 虚寒性の激しい腹痛と嘔吐 腹鳴を伴うもの。

(応用) 胃痙攣・腸疝痛・幽門狭窄症・胃潰瘍・胆石症・膵臓炎

(方解) 附子は腹中の寒気を温め、甘草・大枣・粳米は腹鳴・腹痛を緩和する。半夏は嘔吐を治す。

附子理中湯

(目標) 虚弱者の腹痛 手足の冷えが甚だしく四肢疼痛・頻尿・不眠のあるもの。

(応用) 胃下垂・胃潰瘍・つわり・不安神経症

(方解) 人参湯 加附子

附子は全身機能の低下を回復し、痛みを去る。

分消湯

(目標) 実証の腹水・浮腫に用いる。

腹満・心下痞硬があり少量の食事ですぐにお腹いっぱいになるもの。

(応用) 浸出性腹膜炎・腎炎・ネフローゼ・腹水・肝硬変

(方解) 平胃散 合四苓湯 加枳実・香附子・大腹皮・縮砂・木香・燈心草

平胃散は脾胃の宿食・停水を除き、四苓湯は水毒を去り利尿する。枳実・香附子・縮砂・木香は芳香性健胃剤で、消化促進し、気をめぐらす。燈心草は清熱し利尿する。

分心気飲

(目標) 気鬱のため心下痞硬し、食事をしようとするとう息が出て食欲の出ないもの。気鬱の為に起こる瘦身・眩暈・胸騒ぎ・咳嗽その他諸症状。

(応用) 神経症不食症・浮腫・腹膜炎・乳房痛・神経性咳嗽・神経衰弱

(方解) 桑白皮・大腹皮・茯苓・木通・燈心草は利尿し浮腫を去る。

青皮・陳皮・紫蘇葉・桂枝・生姜・大枣は健胃作用があり気をめぐらし心下痞硬を去る。羌活は発汗解熱する。芍薬・甘草は鎮痙・鎮痛する。

平胃散

(目標) 胃内に宿食と水毒が停滞しているのを平らかにする。
消化障害をきたし心下部不快・痞硬を訴えるもの。

(応用) 胃炎・食欲不振・喘息・胃腸虚弱

(方解) 蒼朮は胃内の湿を燥し厚朴・陳皮は湿を除き気の鬱滯を去る
甘草は諸薬を調和する

変製心気飲

(目標) 心臓性喘息で呼吸促迫・咳嗽・喘鳴のあるもの。
胸膈心下に水気の鬱滯したのを治す。

肩背のこわばり・呼吸困難・心下部の動悸があるもの。

(応用) 喘息・気管支炎・狭心症

(方解) 分心気飲の変方 心下の水を治し、桑白皮・紫蘇子・別甲・
枳実を去り咳嗽を止め桂枝・呉茱萸は寒冷を去り胸腹痛
を治す。

補陰湯

(目標) 起床時に腰痛するもの。腎虚で臍下が虚し皮膚乾燥するもの

(応用) 腰痛・坐骨神経痛・腎炎

(方解) 四物湯 去川芎(加熱地黄)は補血し、四君子湯 去白朮・
大棗・生姜は補気する。知母・黄柏は清熱し、牛膝・杜仲は
筋骨を強壯し腰痛を治す。陳皮・茴香は消化吸收を促進し、
破胡紙は腎を補い多尿・頻尿を治す。

防己黃耆湯

(目標) 表虚で体表に水毒が多く、浮腫や関節の疼痛がおこるもの。
色白で水太りし、疲れやすく・多汗・小便不利のもの。

(応用) 腎炎・ネフローゼ・膝関節炎・浮腫・肥満症で水太りのもの
蕁麻疹・多汗症

(方解) 防己・蒼朮は湿気を去り、黄耆・甘草で表虚を補い体表循環
を促進する。大棗・生姜は諸薬を調和する。

防己茯苓湯

(目標) 水毒による麻痺・シビレ・四肢の浮腫・疼痛

(応用) 腎炎・ネフローゼ・尿毒症・麻痺・ふるえ

(方解) 防己・茯苓は水を利用し湿を去る。桂枝は表虚を補い黄耆は表
を補い表の水を去る。甘草は胃を補う。

防風通聖散料

(目標) 肥満性卒中体質で臍を中心に腹実満で便秘がちのもの。
体内に一切の自家中毒物が鬱滯しているものを解毒する。
表(皮膚)を發散し裏(腸)を攻め下し中間(心下部)
を清熱和解する。

(応用) 肥満・便秘・高血圧・脳溢血・諸皮膚病・糖尿病・痔・
酒渣鼻・蓄膿症

(方解) 調胃承氣湯(大黄・芒硝・甘草)が基本

発表剤：麻黄・防風・生姜・荊芥
攻下剤：大黄・芒硝・甘草
解毒剤：連翹・荊芥・防風・桔梗・川芎
解熱剤：黄芩・山梔子・石膏・滑石
中和剤：当帰・芍薬・川芎・白朮・薄荷
利尿剤：白朮・滑石

★防風通聖散料 去大黄・芒硝で皮膚病に頻用

補肝湯

(目標) 血虚で口渴・不眠・痙攣・痺れのあるもの。
(応用) 月経異常・産前産後の諸病・皮膚病・貧血
(方解) 四物湯 合木瓜・酸棗仁・甘草
四物湯は補血し、木瓜・甘草は痙攣を止め、酸棗仁は鎮静・安眠する。

補気健中湯

(目標) 虚証の浮腫・腹水でお腹が張るもの。
(応用) 浮腫・腎炎・ネフローゼ・肝硬変・腹膜炎・心臓弁膜症
(方解) 四君子湯 合平胃散 去甘草 加黄芩・沢瀉・麦門冬
四君子湯で脾胃を補い、平胃散で胃内停水を去る。
黄芩は清熱し、沢瀉と利尿する。麦門冬は滋潤・栄養する。
★甘草は水分を蓄える作用があるので除く。

補中益気湯

<医王湯>

(目標) 虚証の疲労病を補益する。
疲れやすく食欲減退し元気のないもの
(応用) 虚弱体質改善・病後疲労・食欲不振・夏やせ・虚弱者の感冒
胃下垂・脱肛・不妊症(男性)・喘息・結核・多汗症
(方解) 脾胃を補い元気を益す。
黄耆・人参は補肺し肌表を固め自汗を治す。人参・甘草・
白朮・陳皮・生姜・大棗は胃腸機能を高め、当帰は貧血を治
し、柴胡・升麻は解熱し元気・精気を上昇させる。

補中治湿湯

(目標) 胃腸虚弱で中気下陷し浮腫のあるもの。
(応用) 浮腫・腎炎・ネフローゼ・肝硬変・腹膜炎
(方解) 補気健中湯 加当帰・木通・升麻
木通は利尿し、当帰は血行促進し、升麻は中気下陷を治す。

補肺湯

(目標) 慢性の咳嗽で、息切れ・自汗・元気がない・疲れやすい
食欲不振のもの。
(応用) 気管支炎・気管支拡張症・肺気腫
(方解) 五味子・桑白皮・麦門冬・款冬花は鎮咳・去痰作用があり、
粳米・大棗は滋養強壮し食欲を増進する。桂皮・生姜は血行

促進し発汗する。

補陽還五湯

(目標) 脳卒中の後遺症

瘀血があり気虚のもの。

(応用) 顔面神経麻痺・半身不随・言語障害・脳閉塞・脳血栓・
脳軟化症

(方解) 大量の黄耆が含まれ、中枢神経系を興奮させ全身と脳の機能を改善する。当帰・赤芍・川芎・桃仁・紅花は瘀血を去り血行促進する。地竜は溶血作用があり運動障害を治す。

奔豚湯

(目標) 神経性心悸亢進症

(金匱要略)

動悸し、何か胸中に突き上がる感じのもの。

腹痛・往来寒熱のあるもの。

(応用) ストレス・自律神経失調症・ノイローゼ・ヒステリー

(方解) 李根皮は清熱し呼吸困難を治し利尿する。葛根は解熱・発汗し項背のこわばりを去る。半夏は鎮静し突き上げてくる感じや動悸を去る。当帰・川芎・芍薬は補血し栄養する。黄芩は清熱し、甘草は急迫症状を去り、生姜は冷えを去る。

★豚が奔るように気が上下することを奔豚気という。

奔豚湯

(目標) 金匱要略の奔豚湯より冷えがあり虚証タイプに使用する。

(肘後)

(応用) ストレス・自律神経失調症・ノイローゼ・ヒステリー

(方解) 桂枝は上衝を去り、半夏は鎮静し動悸を去り、呉茱萸は冷えを去り胸部の膨満感を去り、人参は補気し栄養する。甘草は急迫症状を去り、生姜は冷えを去り消化吸収を助ける。

麻黄湯

(目標) 太陽病の表熱実証で頭痛・身疼痛・腰痛・関節痛・悪風があり汗の出ないもの。

(応用) 感冒の初期・鼻閉・喘息・リウマチ・乳汁分泌不足・難産

(方解) 麻黄・桂枝は発表発散し、発汗させる。麻黄・杏仁は喘息を治し甘草は諸薬を調和する。

麻黄附子細辛湯

(目標) 少陰の病で表証のあるもの。

老人・虚弱者に多くあらわれる。

悪寒・微熱・脈沈細・全身倦怠で無気力・ただ臥している・手足厥冷・咳嗽・頭部の冷痛・水様痰・鼻水などの症状のあるもの。

(応用) 感冒・気管支炎・肺炎・頭痛・咳嗽・アレルギー性鼻炎

(方解) 附子・細辛は寒を去り血行促進し身体を温める。

麻黄は表熱と表水を発散する。

麻杏甘石湯

(目標) 咳嗽・呼吸困難・口渴・自汗のあるもの。
水毒が胸中に迫り面目浮腫・上逆・煩悶するもの。

(応用) 気管支炎・喘息・百日咳・肺炎

(方解) 麻黄・杏仁は喘を治し表邪を発散し上部の水を逐う。
石膏は裏水を利し解熱する。甘草は諸薬を調和する。

★麻黄は石膏と組むと止汗作用をあらわす。

麻杏薏甘湯

(目標) 冷えにより発熱し、筋肉痛・関節痛を起こすもの。
皮膚表面は乾燥し裏に水湿があり汗が出るものや、頭にふけが多いものに使用する。

(応用) リウマチ・神経痛・疣贅・手掌角皮症・水虫

(方解) 麻黄・杏仁は体表の水を発散し、薏苡仁は皮膚乾燥を滋潤し甘草と痛みを去る。

蔓荊子散料

(目標) 上部に熱を生じ耳鳴・耳聾のものや、耳から膿汁の出るもの

(応用) 中耳炎・耳鳴り・難聴・耳漏

(方解) 蔓荊子・菊花・升麻・前胡は頭部の消炎鎮痛効果があり、木通・茯苓は利尿し、麦門冬・桑白皮は熱感を去り鎮咳する芍薬・地黄は補血し、乾姜は冷えを去る。大棗・生姜は諸薬を調和する。

麻子仁丸料

(目標) 老人や虚弱者の常習性便秘
体液が少なく血燥し、胃腸に熱のあるもので大便の乾燥して固いもの。

(応用) 常習性便秘

(方解) 小承気湯 加麻子仁・杏仁・芍薬
麻子仁・杏仁は腸の燥きを潤し、芍薬は補血し、枳実・大黄は胃腸の実熱をさまし厚朴は胃気をめぐらす。

味麦益気湯

(目標) 補中益気湯の証で咳嗽のあるもの。

(応用) 気管支喘息・結核

(方解) 補中益気湯 加五味子・麦門冬
補中益気湯で補気健脾し、五味子・麦門冬で咳嗽を止める。

味麦地黄丸料

(目標) 六味地黄丸の証で咳嗽のあるもの。

(応用) 小児喘息

(方解) 六味地黄丸料 加五味子・麦門冬
六味地黄丸料で腎(泌尿器や生殖器)を補い滋潤・栄養し、五味子・麦門冬で咳嗽を止める。

めいろういん
明朗飲

(目標) 諸眼科疾患・視力障害・網膜炎

(応用) 諸眼疾患

(方解) 苓桂朮甘湯 加車前子・細辛・黄連

苓桂朮甘湯は冷えと停水を去る。車前子は利尿し眼症状を治す。細辛は鎮痛し、黄連は消炎する。

もくぼういとう
木防己湯

(目標) 心下部痞硬し、心機能不全で呼吸困難・浮腫・尿不利のもの

(応用) 心臓弁膜症・心不全・喘息・狭心症・下肢浮腫・腎炎
ネフローゼ

(方解) 防己は浮腫を治し胸膈内の停水を去る。石膏・人参は煩燥・口渴・心下痞硬を治し、桂枝は上衝を鎮める。

<ヤ行>

やかんまおうとう
射干麻黄湯

(目標) 呼吸困難・喘鳴・咳嗽・痰のあるもの。

(応用) 気管支喘息

(方解) 小青竜湯 去桂枝・芍薬・甘草(乾姜→生姜) 加射干・紫苑・款冬花・大棗

射干・紫苑・款冬花は鎮咳・去痰作用がある。大棗は諸薬を調和する。

まくいんとう
薏苡仁湯

(指掌)

(目標) 関節や筋肉が腫脹・疼痛するもの。

関節リウマチの亜急性期・慢性期に使用する。

(応用) 関節リウマチ・関節炎・脚気

(方解) 麻黄加朮湯 去杏仁 加当归・薏苡仁・芍薬

麻黄・桂枝は発汗・解熱し、蒼朮・薏苡仁は利水し、当归・芍薬は補血し、芍薬・甘草は疼痛を止める。

まくいんとう
薏苡仁湯

(勿誤)

(目標) 虫垂炎で腹痛・圧痛・抵抗があるもの。

腸管の炎症・化膿

(応用) 虫垂炎・骨盤内炎症・痔核感染

(方解) 腸癰湯 加芍薬

腸癰湯は瘀血を去り排膿・消炎する。芍薬は痙攣による疼痛を止める。

まくいよはいししょうさんりょう
薏苡附子敗醬散料

(目標) 衰弱し体力の衰えたものの虫垂炎・下腹部の炎症性化膿性疾患や肌荒れに使用する。

(応用) 虫垂炎・腹膜炎・膿瘍・化膿性付属器炎・痔瘻
水虫・疥・湿疹・手掌角皮症・帯下

(方解) 薏苡仁・敗醬根は排膿促進し皮膚の乾燥を潤す。

附子は全身機能の衰弱を回復する。

★大黃牡丹皮湯・腸癰湯の与えられない衰弱したものに使用する。

抑肝散料

(目標) 肝気高ぶり神経過敏で、怒りやすく、イライラし、興奮するもの。

(応用) 夜泣き・不眠症・更年期障害・皮膚が痒くてイライラするもの・アトピー性皮膚炎

癩症・神経症・神経衰弱・ヒステリー

(方解) 釣藤鈎・柴胡・甘草は肝気の緊張を緩解し神経の興奮を鎮める。当歸・川芎は補血し血行促進する。茯苓・蒼朮は胃内停水を去る。

★母子同服(親と子供が同じ薬を同時に服用する)の治療例が多い。

抑肝散加陳皮半夏湯

(目標) 抑肝散の証で悪心・嘔吐・腹部膨満感があり胃内停水のあるもの。

(応用) 神経性胃炎・ひきつけ・癩症・神経症

(方解) 抑肝散料 加陳皮・半夏

陳皮・半夏は胃内停水を去る。

<ラ行>

利膈湯

(目標) 食道の通過困難

嚥下困難・嘔吐・口渴があり粘稠な痰や唾液を吐くもの。

(応用) 食道ポリープ・食道狭窄・食道痙攣・食道癌・胃癌

(方解) 半夏は制吐・去痰作用があり、山梔子は清熱・鎮静する。

附子は全身機能の衰弱を回復する。

六君子湯

(目標) 胃腸が弱く疲れやすく貧血ぎみで、胃内停水・心下部の痞え食欲不振のあるもの。

(応用) 胃炎・胃下垂・胃アトニー・胃潰瘍・消化不良・食欲不振・胃腸型感冒・嘔吐

(方解) 四君子湯 合二陳湯(四君子湯 加半夏・陳皮)

脾胃虚弱を治す四君子湯と胃内停水を去る二陳湯の合方

立効散料

(目標) 歯痛・抜歯後の疼痛・頭痛

(応用) 歯痛・頭痛

(方解) 細辛は鎮痛・局麻作用がある。防風・升麻も鎮痛し、龍胆は清熱する。甘草は緩和する。

竜骨湯

(目標) 精神異常があり健忘・気鬱・驚きやすい・独り言を言う等の症状のあるもの。

(応用) 鬱病・精神分裂病・神経症

(方解) 竜骨・牡蠣・遠志・茯苓は精神を安定し、桂枝は上衝を去り、麦門冬・甘草は滋潤・栄養し、生姜は諸薬を調和する。

竜胆瀉肝湯

(薛氏)

(目標) 下腹部や陰部の諸炎症で充血・腫脹・疼痛を伴うもの。
急性・亜急性で実証のもの。

(応用) 尿道炎・膀胱炎・バルトリン腺炎・睾丸炎・帯下・陰部痒痛
子宮内膜炎・膣炎・陰部湿疹・トリコモナス

(方解) 車前子・木通・沢瀉は利水し尿道・膀胱等下焦の炎症を去る。
当帰・地黄は血行促進し竜胆・山梔子・黄芩は消炎解毒する。

竜胆瀉肝湯

(一貫堂)

(目標) 青年壮年期の下腹部や陰部の諸炎症疾患

(応用) 薛氏の竜胆瀉肝湯に準ずる。

(方解) 薛氏の竜胆瀉肝湯 合温清飲 加連翹・薄荷・防風
清熱・解毒の効が強くなっている。

涼膈散料

(目標) 気道・消化管の炎症

(応用) 咽喉痛・口内炎・インフルエンザ・肺炎・肝炎

(方解) 清熱解毒の連翹・山梔子・黄芩・桔梗・甘草・薄荷
瀉下の大黃・芒硝からなる。

苓甘姜味辛夏湯

(目標) 喘鳴・咳嗽・水腫があり冷えと水毒のあるもの。

(応用) 気管支炎・喘息・肺気腫・浮腫

(方解) 苓甘姜味辛夏仁湯 去杏仁
杏仁は鎮咳・去痰作用がある。

苓甘姜味辛夏仁湯

(目標) 喘鳴・咳嗽・水腫があり、慢性化して虚状を呈し冷えと水毒のあるもの。

(応用) 気管支炎・喘息・肺気腫・浮腫・腹水・ネフローゼ

(方解) 裏の寒水を温め排泄する。
茯苓・半夏は胃内停水を去り杏仁は喘を治す。五味子は収斂性鎮咳薬で、細辛は冷えた心下水気を去る。
乾姜は冷えを去り、甘草は諸薬を調和する。

★小青竜湯は表の寒水に用いるが本方は裏に用いる。

★麻黄剤の適さないタイプに使用する。

良積湯

(目標) 心下部や腹部に痙攣性の疼痛を発し、嘔吐を伴うもの。

(応用) 胃拡張・胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃下垂・胆石・胃癌

(方解) 苓桂甘棗湯 加半夏・枳実・良姜

桂枝・良姜は寒を去り痛みを去る。枳実は食滯を去り消化促進する。茯苓・半夏は胃内停水を去り、大棗・甘草は胃腸機能を助ける。

苓姜朮甘湯

(目標) 寒冷と水による腰以下の冷重感・冷痛・身体倦怠感

(応用) 腰痛・腰冷・坐骨神経痛・夜尿症・帯下・遺尿症

(方解) 乾姜は裏を温め茯苓・白朮は表裏の水を去る。甘草は乾姜を助ける。

苓桂甘棗湯

(目標) 臍下の動悸と上衝があり、胸中がつまり下腹部が激痛し嘔吐するもの。

(応用) 心臓神経症・神経性心悸亢進症・神経衰弱・胃痙攣・

癲癇発作・**ストレス**・**ヒステリー**

(方解) 茯苓は心下の悸と心下結痛を治し小便を利す。桂枝は上衝を去る。甘草・大棗は攣急を緩和し急迫症状を緩める。

苓桂五味甘草湯

(目標) 咳嗽があり動悸・息切れのあるもの。

咳をすると上気して顔を赤くするもの。

(応用) 長引く咳・慢性気管支炎・肺炎・喘息

(方解) 茯苓は利水作用があり動悸を治す。桂枝は上衝を去り、甘草は急迫を治す。五味子は呼吸困難・咳嗽を治す。

苓桂朮甘湯

(目標) 眩暈・身体動揺感・息切れ・心悸亢進・上衝・頭痛・尿利減少があり虚症で胃気が衰え水毒が胃に停滞するもの。

(応用) メニエール症候群・めまい・耳鳴り・腎炎・心悸亢進症・

結膜炎・**ノイローゼ**・**ヒステリー**

(方解) 茯苓・白朮は胃内停水を去り動揺症状を去り、桂枝は気の上衝を去り、甘草は裏虚を補う。

麗沢通気湯

(目標) 消化機能が衰えて、鼻がつまり、嗅覚の悪くなったもの。

(応用) 鼻閉塞・鼻炎・副鼻腔炎

(方解) 白芷・羌活・防風・升麻・麻黄・葛根・独活は解熱鎮痛し頭部の炎症を去る。黄耆・甘草・大棗・生姜・蜀椒は消化吸収を促進する。蒼朮は健胃・利尿する。

連珠飲

(目標) 貧血による動悸・めまい・耳鳴り・息切れ・顔面浮腫

(応用) 貧血症・めまい・動悸・耳鳴り

(方解) 四物湯 合苓桂朮甘湯

四物湯は補血し、苓桂朮甘湯は水毒を去りめまいを治す。

六味丸料

(目標) 腎虚 (泌尿器や生殖器の機能不全) でめまい・耳鳴り・難聴
下肢のだるさ・口渴・手足のほてり・小便不利・遺精を伴う
もの。

八味地黄丸証で寒冷の症状の少ないもの。

(応用) 小児の発育不良・糖尿病・腎炎・膀胱疾患

(方解) 八味地黄丸料 去桂枝・附子

参考文献

- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| 漢方診療医典 | 大塚敬節 矢数道明 | 南山堂 |
| 漢方治療の実際 | 大塚敬節 | 南山堂 |
| 漢方処方 応用の実際 | 山田光胤 | 南山堂 |
| 傷寒論解説 | 大塚敬節 | 創元社 |
| 金匱要略講話 | 大塚敬節 | 創元社 |
| 漢方処方解説 | 矢数道明 | 創元社 |
| 漢方医語辞典 | 西山英雄 | 創元社 |
| 中医処方解説 | 神戸中医研 | 医歯薬出版株式会社 |
| 漢薬の臨床応用 | 神戸中医研 | 医歯薬出版株式会社 |
| 原色和漢薬図鑑 | 難波恒雄 | 保育社 |

服薬指導マニュアル 処方解説編

平成7年5月 第1版

北里研究所東洋医学総合研究所 薬剤科

著者 金 成俊

永井 由香